

526
102



始





KZ8V-13



纂 編
神奈川縣警察部

大正
15.10.4
内交

詔書

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑑ミ皇
 考中興ノ宏謨ヲ繼承シテ肯テ愆ヲサラシコトヲ庶幾シ夙夜
 兢業トシテ治ヲ圖リ幸ヒニ祖宗ノ神祐ト國民ノ協力トニ賴
 リ世界空前ノ大戰ニ處シ尙克小康ヲ保ツヲ得タリ
 奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其震動極メテ峻
 烈ニシテ家屋ノ潰倒男女ノ慘死幾万ナルヲ知ラス剩ヘ火災
 四方ニ起リテ炎燄天ニ冲リ京濱其他ノ市邑一夜ニシテ焦土
 ト化ス此ノ間交通機關杜絶シ爲ニ流言飛語盛ニ傳ハリ人心
 洶々トシテ倍々其ノ慘害ヲ大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災
 ニ較レハ寧口凄愴ナルヲ想知セシム

朕深く自ラ戒慎シテ已マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速ニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルノミ凡ソ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果斷ナカルヘカラス若シ其レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前後ヲ誤リ或ハ個人若クハ一會社ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安固ヲ脅スカ如キアラハ人心動搖シテ底止スル所ヲ知ラス朕深く之ヲ憂惕シ旣ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ途ヲ講セシメ且ツ焦眉ノ急ヲ拯フヲ以テ惠撫滋養ノ實ヲ舉ケムト欲ス

抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タル

ノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス

惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其慶ニ賴ラムコトヲ切望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關ヲ設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ其成案ハ或ハ之ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セントス

在朝有司能ク朕カ心ヲ心トシ迅ニ災民ノ救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ民心ヲ安定シ一般國民能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ致シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕前古無比ノ天殃ニ際會シテ郵民ノ心愈々切ニ寢食爲ニ安カラス爾臣民

其レ克ク朕力意ヲ體セヨ

御名御璽

攝政名

大正十二年九月十二日

内閣總理大臣	伯爵	山本權兵衛
兼外務大臣	子爵	後藤新平
内務大臣		岡野敬次郎
文部大臣		財部彪
海軍大臣		陸軍大臣
陸軍大臣	男爵	田中義一
農商務大臣	男爵	田健治郎
遞信大臣		犬養毅

司法大臣	平沼騏一郎
鐵道大臣	山之内一次
大藏大臣	井上準之助

詔書

朕惟フニ國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ之ヲ涵養シ
之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセサルヘカラス是ヲ以テ先帝
意ヲ教育ニ留メサセラレ國體ニ基キ淵源ニ遡リ皇祖皇宗ノ
遺訓ヲ掲ケテ其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ後又臣民ニ詔シテ忠
實勤儉ヲ勸メ信義ノ訓ヲ申ネテ荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ是
レ皆道德ヲ尊重シテ國民精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ
非サルナシ爾來趨向一定シテ效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆
ヲ致セリ朕即位以來夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ俄
ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交々至レリ
輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム然レトモ浮華放縱ノ習漸ク

萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス今ニ及ヒテ時弊ヲ改メスムハ或
ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル況ヤ今次ノ災禍甚々大ニシテ
文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神ニ待ツチャ是レ實ニ
上下協戮振作更張ノ時ナリ振作更張ノ道ハ他ナシ先帝ノ聖
訓ニ恪遵シテ其ノ實効ヲ舉クルニ在ルノミ宜ク教育ノ淵源
ヲ崇ヒテ智德ノ竝進ヲ努メ綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ浮華
放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ
歸シ人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責
任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤
クシ入りテハ恭儉勤敏業ニ服シ產ヲ治メ出テハ一己ノ利害
ニ偏セスシテ力ヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ
安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ朕ハ臣民ノ協翼ニ頼リテ彌々

國本ヲ固クシ以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ爾臣民其レ之ヲ勉メヨ

八

御名御璽

攝政名

大正十二年十一月十日

農商務大臣	陸軍大臣	海軍大臣	文部大臣	內務大臣	內閣總理大臣
男爵 田健治郎	男爵 田中義一	財部 彪	岡野敬次郎	子爵 後藤新平	伯爵 山本權兵衛

外務大臣	大藏大臣	鐵道大臣	司法大臣	遞信大臣
男爵 伊集院彦吉	井上準之助	山之内一次	平沼騏一郎	犬養毅

攝政宮御沙汰

一〇

攝政殿下ハ昨日午後六時三十分山本内閣總理大臣ヲ
赤坂離宮ニ召セラレ左ノ御沙汰ヲ賜ハリタリ
今回稀有ノ大地震東京及近縣ヲ襲ヒ之ニ加フルニ大火ヲ以
テシテ其慘害甚々大ナルハ實ニ國家生民ノ不幸ナリ予ハ其
ノ實況ヲ見聞シテ日夜憂戚シ殊ニ罹災者ノ境遇ニ對シテハ
心深ク之ヲ傷ム茲ニ内帑ヲ頒チテ其ノ苦痛ノ情ヲ慰メント
欲ス官民其レ協力シテ適宜應急ノ處置ヲ爲シ以テ遺憾ナキ
ヲ期セヨ

御賑恤

今回ノ震災ニ付被害慘狀ヲ極ムル趣被聞食賑恤ノ御思召ヲ
以テ 天皇陛下ヨリ内帑金壹千萬圓下賜セラレタリ右御内
帑金ハ昨日午後六時三十分内閣總理大臣赤坂離宮ニ參内
攝政殿下ヨリ拜受シタリ

二

内閣告諭第一號

東京及近縣ニ亘レル今次ノ震災ハ伴フニ大火災ヲ以テシ慘害ノ甚シキ言語ニ絶シ日常ノ設備蕩然一空ニ歸シ焦眉ノ措置最モ急ヲ要ス

政府ハ先ツ秩序ヲ保チ安定ヲ得シムルニ勉メ食糧物資ノ補給建築材料ノ準備其ノ他應急百般ノ施設ヲ爲スニ於テ最善ノ努力ヲ竭クシツ、アリ

攝政殿下深ク御憂慮アラセラレ親シク優渥ナル御沙汰ヲ賜ヒ内帑ノ資ヲ發セララルル旨ヲ傳ヘラレ適宜應急ノ處置ヲ爲シ遺憾ナキヲ望マセラルル生民ノ休戚ニ就キ御軫念アラセララルルノ深キ同胞ト俱ニ本大臣ノ恐懼感激ニ勝ヘサル所ナリ

茲ニ 聖旨ヲ奉シテ應急ノ處置ヲ執リ復舊ヲ圖ルハ政府ノ全力ヲ舉ケテ事ニ從フ所ナルモ亦舉國一致ノ奮起協力ニ待ツコト切ナリ

冀クハ罹災者ハ固ヨリ一般ノ國民皆能ク 聖旨ノ渥キヲ奉體シ官民戮力以テ仁慈ナル御沙汰ノ貫徹ヲ期シ各自相激勵シテ適應ノ處置ヲ誤ラス此ノ異常ノ災害ニ對シテ絶大ノ努力ヲ致サレムコトヲ是レ本大臣ノ切望ニ堪ヘサル所ナリ

大正十二年九月四日

内閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

内閣告諭第二號

今次ノ震災ニ乗シ一部不逞鮮人ノ妄動アリトシテ鮮人ニ對シ頗ル不快ノ感ヲ抱ク者アリト聞ク鮮人ノ所爲若シ不穩ニ亘ルニ於テハ速ニ取締ノ軍隊又ハ警察官ニ通告シテ其ノ處置ニ俟ツヘキモノナルニ民衆自ラ濫ニ鮮人ニ迫害ヲ加フルカ如キコトハ固ヨリ日鮮同化ノ根本主義ニ背戾スルノミナラス又諸外國ニ報セラレテ決シテ好マシキコトニ非ス事ハ今次ノ唐突ニシテ困難ナル事態ニ際會シタルニ基因スト認メラルルモ刻下ノ非常時ニ當リ克ク平素ノ冷靜ヲ失ハス慎重前後ノ措置ヲ誤ラス以テ我國民ノ節制ト平和ノ精神ヲ發揮セムコトハ本大臣ノ此際特ニ望ム所ニシテ民衆各自ノ切

ニ自重ヲ求ムル次第ナリ

大正十二年九月五日

内閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

内閣告諭號外

我至仁至慈ナル

天皇陛下ニハ今回震災ノ被害極メテ慘烈ナルヲ深ク軫念アラセラレ曩ニ内帑ノ資壹千萬圓ヲ下シ賜ヒ今亦

大詔ヲ渙發シテ惠撫慈養ノ道ヲ示シ給フ不肖就任後日尙淺ク

鳳命ヲ拜シテ恐懼措ク所ヲ知ラス敢テ帝都復興ノ計ヲ立テ以テ上ハ

宸襟ヲ安シ奉リ下ハ數百万罹災者ヲシテ生活ノ安定ヲ得シメムコトヲ期ス

今回ノ震災ハ其ノ區域一府四縣ニ跨リ東京ヲ始メトシテ横

濱其ノ他湘南房總ノ地特ニ被害ノ劇シキモノアリ家屋ヲ燒盡シ父母骨肉ヲ喪ヒタル幾百萬ノ災民ハ殘壁燬瓦ノ間ニ佇ミテ食フニ糧ナク着ルニ衣ナク焦髮爛身命旦夕ニ迫ル者比々皆然リ在留外國官民ノ遭難者亦甚多シ是レ不肖ノ共ニ心痛已マサル所ナリ此ノ時ニ際シ友邦ノ元首ヲ始メ各國官民ノ今次事變ニ對シ至大ナル救援ノ厚情ヲ表セラレタルハ不肖同胞ト共ニ感謝措ク能ハス但夫レ多數罹災民ハ概ネ能ク危急ヲ冒シ艱苦ニ耐ヘ沈着ノ態度ヲ失ハサリシモ此ノ間多少ノ常軌ヲ逸シタル者アルヲ免カレス此ノ如キハ一時ノ誤解ニ外ナラサリシヲ以テ今ヤ全ク其ノ迹ヲ絶テリ

固ヨリ今次ノ變災ニ方リ政府ハ夙ニ臨機ノ措置ヲ取り戒嚴令ヲ布キ糧食ノ供給假舎ノ急築ニ着手シ極力流言飛語ヲ禁

二八
遏シ非違ヲ警メ民間亦政府ト相呼應シテ賑恤救護ノ義舉ニ出ツル者多ク爲ニ焦眉ノ急ヲ拯フコトヲ得タリト雖一時ノ救恤ハ以テ災民持久ノ生活ヲ保障スルニ足ラス是ヲ以テ政府ハ銳意水陸交通ノ復活ヲ圖リ財政ノ許ス限リニ於テ金融機關ノ圓滑ヲ期シ衣食住ニ關スル必需品ヲ調達シテ遭難地方ニ提供シツ、アリ此ノ場合ニ際シテハ官民俱ニ平時ノ條規ニ膠柱セス公道ニ基キ人情ニ酌ミ便宜責任ヲ負ヒテ變通ノ道ヲ開カムコトヲ切望ス

憂フル所ハ此ノ稀有ノ天災ヲ奇貨トシ個人又ハ會社ノ生活必需品ヲ運用シ機ヲ見テ暴利ヲ征セムトスルニ在リ此ノ如キハ最モ戒飭セサルヘカラサル所ニシテ 聖慮ヲ注カセ給フ所亦此ニ存ス各自能ク其ノ公德心ニ訴ヘテ私利ヲ後ニシ以テ多數同胞ト苦樂ヲ共ニスルノ覺悟アルヲ要ス例ヘハ保險事業ノ如キハ其ノ性質上社會公衆ノ安固ヲ目的トスルモノナルヲ以テ此ノ重大ナル事變ニ顧ミ幾十萬ノ信賴ニ負カサルヤウ犠牲ノ精神ヲ發揮シテ慎重ノ考慮ヲ盡シ當業者終局ノ利益ヲ期スヘク其ノ他米穀木材船舶等ノ當業者亦俱ニ營利ノ目的ヲ離レテ物資ノ配給ニ勉メ以テ同胞共榮ノ美ヲ濟ササルヘカラス

政府ハ今ヤ極力物資ヲ豊富ニシテ之ヲ震災地ニ急送セシメ都鄙ノ別ナク之カ公平ナル分配ニ勉メツツアリ局ニ當ルノ所在官公吏ハ益々物資供給ノ敏活ヲ期シテ之カ普及ニ努力スヘク一般官公吏亦此ノ非常ノ場合ニ處シ心身ノ許ス限リ職務ニ執掌スヘシ殊ニ職ニ治安ノ任ニ在ル者ニ至リテハ懇

切ニ民衆ヲ勞ハルト共ニ嚴密ニ非違ヲ警メ以テ其ノ責務ヲ
完フスヘシ

二〇

願フニ東京ハ

先帝登極ノ初特ニ車駕東幸シテ親シク宮城ヲ定メサセ給
ヒシ所爾來五十有六年ノ星霜ヲ閱シテ國都ノ規模既ニ備ハ
リ政治經濟ノ樞軸トナリ文教風化ノ淵叢トナリ中外ノ具ニ
瞻望スル所ナリ之ヲ復興スルノ努力如何ハ世界列國ノ環視
スル所我邦實力如何ヲ知ルノ試金石亦此ニ在リ是ノ故ニ帝
都ノ復興ハ單ナル一市府ノ問題ニ非スシテ實ニ帝國ノ隆運
ヲ進暢スル國家重要ノ事業タリ隨テ其ノ方策ハ聖旨ヲ奉
戴シ帝ニ舊時ノ盛觀ヲ回復スルノミニ止マラス更ニ進テ將
來ノ發展ヲ豫想シ之カ計畫ヲ立テサルヘカラス之カ爲政府

ハ先ツ帝都復興審議會ヲ特設シ朝野ノ衆智ヲ集メテ重要ノ
案件ヲ審議シ別ニ適當ノ機關ヲ設ケ緩急序ヲ逐フテ着々其
ノ成案ヲ實施セシメ以テ國都タルノ實ヲ完ウセシメムコト
ヲ期ス

茲ニ恭シク大詔ヲ奉讀シテ仁慈ノ渥キニ感激シ恐懼己ム
無シ熟々考フルニ昌平日久シクシテ人心漸ク浮華ニ流レ放
縱ニ走り歷代ノ内閣累次ニ訓示策勵スレトモ積弊ノ馴致ス
ル所容易ニ頹風一轉ヲ見ス今ヤ非常ノ難局ニ際會シテ宸
襟ヲ惱シ奉ルコト此ノ如シ朝野一般竦然トシテ大ニ覺醒ス
ヘキノ秋ナリ顧ミレハ罹災府縣數百萬ノ同胞ハ骨肉ニ別レ
住家ニ離レ今尙短褐雨露ニ暴サレ一掬ノ玄米ニ縷命ヲ繫ク
ノ情態ニ沈淪セリ苟モ之ニ同情セハ人々相戒メテ華ヲ去リ

二

實ニ就キ質素勤儉依テ得ル所ノ餘力ヲ以テ罹災同胞ノ救護
ニ應シ同心協力進テ帝都復興ノ難事業ニ至大ノ援助ヲ與ヘ
興國ノ基ヲ固ウシ以テ 聖慮ニ副ヒ奉ルハ不肖ノ切望シテ
己マサル所ナリ

大正十二年九月十六日

內閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

內閣告諭號外

曩ニ帝都ノ復興ニ關スル 聖詔ヲ拜セシニ今又精神振作ノ
大詔ヲ下シテ國家興隆ノ道ヲ示シタマヒ國民ヲシテ其ノ向
フ所ヲ知ラシメタマフ 叡慮深遠誠ニ感激ノ至ニ堪ヘス
謹ミテ案スルニ 明治天皇夙ニ開國進取ノ國是ヲ定メ積弊
ヲ一新シテ庶政ノ釐革ヲ斷行シタマヘリ是ニ於テ民心一時
ニ作興シ質實剛健ノ氣風ヲ以テ文化ヲ開發シ國運ノ隆隆タ
ル前古其ノ比ヲ見ス後教育ニ關スル 勅語ヲ下シテ其ノ大
綱ヲ諭シ國體ノ尊フヘキ淵源ノ重スヘキヲ知ラシメタマヘ
リ日清日露ノ兩戰役ニ偉績ヲ奏セシハ實ニ教育勅語ノ明効
ナリ然ルニ國威ノ宣揚セラレタルト共ニ國民ノ意漸ク驕リ
動モスレハ輕佻浮華ニ失セムトスルモノアリ 先帝更ニ大

詔ヲ煥發セラレ勤儉ヲ勸メ荒怠ヲ誡メタマヘリ然レトモ積年ノ宿弊ハ容易ニ之ヲ改ムルヲ得ス殊ニ歐洲大戰ノ齎セル經濟界ノ變調ニ促サレテ人心放縱ニ流レ節制ヲ失ヒ國情ト相容レサル外來思潮ト相待チテ思想詭激ニ趨カムトスルノ風アリ今ニシテ反省自覺以テ中正ニ歸スルニ非スムハ社會ノ頹敗ハ遂ニ之レヲ濟フニ由ナカラムトス今未曾有ノ天災ニ際シテ此ノ聖詔ヲ拜スルニ至リタル所以ヲ思ヒ恐懼益々深シ

願フニ聖旨ヲ奉體シテ之カ實行ヲ期シ文物ヲ災後ニ恢復シテ更ニ國運ノ振張ヲ圖ルニハ其ノ努力從來ニ幾倍スルモノナカルヘカラス是レ國民精神ノ振作更張特ニ急切ヲ告クル所以ナリ之カ爲ニ先ツ教育ノ振興ヲ圖リ特ニ德育ヲ根抵

トシテ重チ人格ノ養成ニ置キ弛緩セル風紀ノ振肅ニ勉メ浮華ヲ去リ輕佻ヲ斥ケ我邦道德ノ大本タル忠君愛國ノ思想ヲ基礎トシテ益々協力一致義勇奉公ノ精神ヲ旺ニシ官民齊シク奢侈ヲ戒メ冗費ヲ節シ生活ノ安固ヲ圖リ經濟上ノ實力ヲ養ヒ進ンテ力ヲ産業ノ進暢ニ盡シ以テ國家ノ興隆ヲ致サルヘカラス

今此ノ災厄ノ後ニ於テ人々ノ自覺ヲ促シ現下ノ弊風ヲ一掃シテ維新當初ノ元氣ニ復シ國民ノ精神ヲシテ愈々剛健ナラシメ相率井テ文物ノ恢復ト國力ノ振興トニ盡瘁シ以テ聖慮ニ副ヒ奉ラムコトハ本大臣ノ切望シテ止マサル所ナリ

大正十二年十一月十一日

內閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛

皇室の御仁慈

畏くも縣下大震火災の慘禍の報一度
賢邊の御聞に達するや痛く縣民の艱苦を御軫念遊はされ
九月四日四竈待従を横濱及横須賀の兩市に差遣はされ更
に

皇后陛下

には十一月五日當市に行啓あらせられ伊勢山正金銀行俱
樂部跡の焦土に立たせ給ひ親しく慘禍の跡を憐はせられ
且つ畏くも御救恤の御思召を以て罹災民傷病者を收容せ
る社會館、濟生會病院、日本赤十字社本縣支部、十全病
院、宮内省治療班、赤十字社石川支部診療班、大阪府外

一府六縣聯合假病院、日本赤十字病院等に御立寄りを賜
はり

皇太子殿下

には十月十日當市に行啓あらせられ焦土の市街を憐はせ
られ戒嚴司令部、本縣廳假廳舎に御立寄りを賜はりたる
上海路横須賀市に成らせられ全市の災蹟を憐はせられ横
須賀鎮守府、東京灣要塞司令部、横須賀海軍機關學校に
御立寄り遊はされ

秩父宮殿下

華頂宮殿下

には九月二十三日當市に成らせられ焦土の市街を憐はせ
られ海軍司令部、社會館、戒嚴司令部、濟生會病院に御

立寄りあり

閑院宮殿下

には九月二十五日當市に成らせられ市内御巡視の上戒嚴司令部、本覺寺、米國病院、赤十字社石川支部救護班、全山口支部救護班、全香川支部救護班、全本縣支部救護所に御立寄りあり越へて十一月五日にも

同 殿下

には

皇后陛下

の供奉として御來濱あり

竹田宮妃殿下

東伏見宮妃殿下

東久邇宮妃殿下

には十月二十二日御同列にて當市に成らせられ焦土の市街を轡はせられ赤十字社本縣支部、大阪病院、根岸療養院、社會館、濟生會病院等に御立寄り遊はされたり
右の如く

皇后陛下

皇太子殿下

を首ごし奉り前掲各宮殿下には畏くも親しく焦土の上に立たせ給ひ災禍の状況を轡はせられ又傷病者收容所に御立寄り遊はされては御憐恤の御言葉を下し賜はりたる等海の如く深き御仁慈の大御心に對し奉りては官民齊しく感涙に咽ひたるか加之

皇室よりは關東地方の罹災民に對し御救恤の御思召を以て金壹千萬圓の御下賜あり本縣に於ては左記金額を下し賜はりたるを以て縣當局は御聖旨を奉し縣下罹災民に對し夫々傳達する處あり

記

一金貳百五拾壹萬九千四百拾四圓也

三〇

御禮言上と天機奉伺

畏くも

聖上陛下 には震、火災慘禍の極めて甚大なるを聞召し痛く御軫念遊はされ特に御内帑金の御下賜あり

皇后陛下

攝政殿下

には本縣下に行啓あらせられ親しく縣下の慘狀及救護の實況を變はせられ御仁慈を垂れさせ給へるのみならず傷病者等に對しては特に御慰撫の御言葉を下し給はりたる等皇恩の優渥なる洵に恐懼感激に堪へざる所なり之に對し大正十二年十一月二十二日我縣廳假廳舎の「バラツク」

三一

(櫻木三丁目)に招集せられたる臨時縣會は其の第一日に於て頗る敬虔嚴肅なる態度を以て御禮言上竝に天機奉伺の決議を爲し同時に陸海軍關係官廳に對しても感謝狀を呈するここを決議し縣會議長上郎清助は同月二十六日宮内省及東宮御所に伺候し決議書を捧呈して其の執奏方の依頼を爲したり今臨時縣會の速記録を抄録すれば左の如し

(縣會議事録抜萃)

大正十二年十一月二十二日

午後一時五十分振鈴議員一同着席

安河内知事ハ松原、山宮、森岡ノ三部長、安藤、長岡、林、

萱場ノ四理事官、福田、高田、草柳ノ三技師、三輪、野口ノ二警視、岡田屬等ノ議事參與員ヲ隨ヘテ議場ニ臨ミ左ノ通り口演セラル。

茲ニ本日ヲ以テ臨時縣會、同市部會、同郡部會ヲ開會致シマス、斯ノ如キ假小屋ニ於テ縣政ヲ議シヤウトハ夢ニモ思ハナカツタ所デアリマス、然ルニ斯ノ如キ場合諸君ノ御會同ヲ煩ハシテ災後ノ縣政ヲ議スルト云フコトハ感慨ニ堪ヘナイノデアリマス。

今回ノ臨時縣會ニ付議致シマスル事件ハ豫テ告示デ御承知ノ通りニ、名譽職參事會員、同補充員ノ選舉、本年度ノ一般會計並ニ各部會計一部ノ歳入歳出追加豫算、ソレト起債及償還方法等ヲ御審議ヲ願フコトニナツテ居リマ

ス、去ル九月一日ノ震災ハ實ニ有史以來未曾有ノ大災害
 デ御座ヒマシテ、其ノ被害ノ區域ハ一府四縣、而カモ東
 洋文化經濟ノ中心タル東京府、横濱市ヲ包含シテ居リマ
 ス、就中本縣ハ其ノ震害ノ中心デアルヤウナ觀ガアリマ
 シテ被害ガ最モ激甚ヲ極メテ居リマス、其ノ被害區域ハ
 横濱市ヲ首メ縣下各地ニ及ビマシテ最モ慘狀ヲ極メテ居
 ルノデアリマス、家屋ノ倒潰、燒失又ハ人畜ノ死傷夥シ
 キ數ニ上ボリマシテ、我縣廳其他公營物モ、亦多ク燒失
 倒潰ヲ免レザリシト云フコトハ、誠ニ各位ト共ニ痛恨ニ
 堪ヘナイノデアリマス。

畏クモ 聖上陛下ニ於カセラレマシテハ、今回ノ震害ニ
 付テ深ク御軫念遊バサレマシテ、直ニ大詔ヲ御煥發ニ相

成リ、且ツ賑恤ノ思召ヲ以チマシテ、特ニ御内帑金壹千
 萬圓ノ多額ヲ御下賜ニ相成タノデアリマス、其ノ内本縣
 ニ對シテ貳百五拾壹萬餘圓ノ分與額ヲ頂戴シタ次第デア
 リマス、又 兩陛下ヨリハ特別ノ御思召ヲ以チマシテ、
 葉山、西浦、逗子ノ三ヶ町村ニ對シマシテ、學校ノ破損
 ヲ修理スルト云フ目的ヲ以チマシテ五千圓ノ御下賜金ヲ
 頂戴シタノデアリマス、誠ニ 聖恩ノ優渥洪大ナル感激
 ノ至リニ堪ヘヌノデアリマス、先ニ申述べマシタ縣下一
 般罹災民ニ對スル御下賜金ノ分與方ニ付キマシテハ、目
 下市町村長ヲ督勵致シマシテ、ソレト、處理ヲ致サセ、
 成ヘク速ニ罹災民一般ガ 聖恩ノ厚キニ浴シマスルヤウ
 ニ取計ハセツ、アルノデアリマス。

皇后陛下 攝政殿下ニハ畏クモ特ニ本縣下ニ行啓アラセラレマシテ親シク罹災地、並ニ罹災民救護ノ狀況ヲ嚮ハセラレマシテ、傷病者ヲ御慰問遊バサレル等、所謂赤子愛撫ノ仁慈ヲ垂レサセ給フト云フコトハ、我々一同ノ深ク恐懼感激ニ堪ヘザル次第デゴザイマス、又畏レ多クモ各宮殿下ヨリ御下賜金ヲ頂戴シ、殊ニ 閑院宮殿下ヨリハ特別ノ思召ヲ以チマシテ小田原町ニ對シテ參千圓ノ御下賜金ガアツタノデアリマス、宮家ノ御遭難ニ想倒致シマシテ、此ノ恩典ニ浴スルコトヲ考ヘマスレバ、誠ニ感激措ク能ハザル次第デアリマス、小田原、鎌倉、藤澤等ニ御滞在中デアラセラレタ所ノ 宮殿下御四方マデモ御遭難遊バサレタト云フコトハ、特ニ臣子トシテ恐懼ニ堪

ヘヌ次第デアリマス。

縣下在留外邦人ノ被害ガ又甚大デアツタト云フコトハ、是亦同情ニ堪ヘズ遺憾ノ極ミデアリマス、サウシテ親交列國ノ厚キ同情ト救護ニ對シマシテハ、衷心感謝ニ堪ヘヌ次第デアリマス、殊ニ、御承知ノ如ク米國ノ深甚ナル同情ト、神速ナル來援トハ、我々一同ノ感佩深謝シテ措ク能ハザル所デゴザイマス。

陸海軍ノ多大ノ援助ニ依リマシテ、公安維持、交通運輸ノ連絡、罹災民ノ救護等ニ甚大ノ便宜ヲ得タコトハ、御一同ト共ニ實ニ感謝ニ堪ヘヌノデアリマス、又上ハ皇室ヨリ、國內各府縣及各種ノ慈惠團體、其ノ他江湖ノ仁人義士達ガ舉ツテ物資ノ供給ヤ、傷病者ノ治療等ニ多大ノ

援助ヲ與ヘラレタ爲ニ、我が縣下塗炭ノ苦ミヲ救ヒ、焦眉ノ急ヲ助ケタト云フコトハ、是亦深く感謝スル所デアリマス。

罹災者ノ救護、及災害善後ノ處置ニ付キマシテハ、中央政府ノ御指導ノ下ニ爾後駑鈍ヲ盡シテ銳意之ニ盡瘁シテ居ルノデアリマスガ、唯其ノ微力及バザラムコトヲ懼ル、次第デアリマス、色々ノ事情モアリマスガ、就中被害ノ甚大ナリシ爲ト、事控惚ノ際デアリマス爲ニ往々ニシテ豫期ノ成果ヲ收ムルコトノ出來ヌト云フコトハ、誠ニ不徳ノ致ス所デアリマシテ、遺憾ニ堪ヘザル次第デアリマス、目下政府ニ於キマシテモ國帑多端デアツテ、動モスレバ窮乏ヲ訴ヘルニ拘ハラズ、努メテ此ノ地方慘害ノ

實狀ヲ諒トシテ、財政上ノ援助ヲ與フルニ吝ナラヌト云フコトノ跡ノ見ヘルト云フコトハ、誠ニ感謝ニ堪ヘヌ次第デアリマス、ドウカ將來ハ一層努力奮勵ヲシマシテ、幸ニ各位ノ御援助ニ依ツテ、所謂官民一致俱ニ共ニ臥薪嘗膽ノ覺悟ヲ以テ目下ノ難局ニ盡瘁シタイト云フコトヲ思フノデアリマス。

今回提出ノ追加豫算ハ其ノ筋ノ特別ノ制定ニ係リマスル警察官ノ増員、此ノ増員ニ伴ヒマス所ノ警察諸費、其ノ他災害應急費等デゴザイマシテ、總額ガ百二十一萬六千餘圓ト相成ツテ居リマス、其ノ内連帶所屬八十九萬八千餘圓、市部所屬二十一萬千餘圓、郡部所屬十萬六千餘圓デアリマス、尙ホ之ヲ費目別ニ申シマスレバ、警察諸費

四十九萬九千餘圓、教育費が五十六萬七千餘圓、土木費
が四萬二千餘圓、衛生及病院費が四萬三千餘圓、勸業費
が二萬五千餘圓、郡役所諸費が二萬千圓、其ノ他縣廳舍
ノ假屋建築費、縣吏員費等ガゴザイマス、而シテ是等ノ
費目ニ充ツベキ財源ハ、遺憾ナガラ此ノ場合縣稅又ハ市
ノ分賦ノ増徴ハ到底之ヲ求ムルノ途ガゴザイマセヌノデ
警察諸費ニ對スル特別國庫補給金、其ノ他歲出ニ伴ヒマ
スル政府從來ノ補助金、下渡金、其ノ他政府ガ此際特ニ
縣ノ財政狀況ヲ斟酌セラレテ増補助等モゴザイマスガ、
要スルニ是等ノ收入ヲ以テ充テマスルノ外ハ致シ方ガア
リマセヌノデ、政府ニ交渉シテ國庫ヨリ無利子借入ノ見
込デ居ルノデアリマス、即チ一時國庫ヨリ縣債トシテ借

入ヲシテ之ニ充當スル覺悟デアリマスガ、併シナガラマ
ダ此事ハ政府モ色々ノ財政ノ計劃ガ總テ決定シタト云フ
譯デアリマセヌカラ、今後微力ナガラ相當ノ交渉ヲ遂ゲ
テ政府ノ諒解ヲ求ムル覺悟デ居ルノデアリマス。
次ニ此ノ機會ニ於キマシテ併セテ御報告ヲ要シマスル次
第ハ、今回ノ災害應急費並ニ警察官ノ増員ニ伴ヒマスル
警察費等ノ爲ニ、其ノ時ノ事情ニ依ツテ專決處分―又ハ
參事會ノ御代決ヲ求メルコトガ大分アルノデアリマス、
其ノ專決處分―又ハ參事會ノ議決ヲ經タル既往豫算追加
額ハ、總額ニ於テ百五十六萬二千餘圓ニ達シテ居リマス
内連帶所屬百五萬三千餘圓、市部所屬ガ二十餘萬圓、郡
部所屬ガ三十萬八千餘圓ニナツテ居リマス、此ノ重ナル

費目費額ヲ申シマスレバ、警察諸費ガ八十一萬千餘圓、
教育費ガ三十三萬餘圓、土木費ガ二十八萬八千餘圓、勸
業費ガ三萬五千餘圓、衛生及病院費ニ於テ二萬七千餘圓
縣廳舍假屋建築費及縣會議諸費合セテ二萬一千餘圓等デ
アリマス、之ガ歳入ト致シマシテハ今申上マシタ各部ヲ
通ジ總額九十一萬四千圓ノ縣債、即チ國庫ヨリ融通ノ縣
債ヲ以テ充テマス、尙ホ災害ノ初メニ方リマシテ應急ノ
資金トシテ國庫ノ好意ニ依リマシテ、無利子ヲ以テ縣ニ
百萬圓、其ノ他縣ヲ仲介トシテ横濱市ニ五十萬圓、横須
賀市並ニ其ノ他ノ町村ニ五十萬圓ノ貸付ヲ受ケテ居リマ
ス、又今回小學校應急施設費トシテ縣下ノ市町村ニ總額
四百二十三萬五千九百圓ヲ政府ヨリ融通スルコトニナツ

テ居リマス、此ノ事ハ既ニ政府ノ方針ガ決定シタノデア
リマス、横濱市ニ對シマシテハ直接ニ貸付ケルト云フ方
針デアリマシテ、他ノ市町村ニ貸付ノ分ハ縣ガ仲介チシ
テ、一旦之ヲ縣債トシテ受入レ更ニ轉貸スルコトニナツ
テ居リマス、此ノ事ニ關シマスル追加豫算、並ニ起債及
償還ノ方法モ提案致シテ置キマシタカラドウカ相當ノ御
審議ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、其ノ他參事會員ノ
選舉等宜シク御審議ノ上適當ノ御議決、又參事會員並ニ
補充員ノ選舉ニ於テモ適當ノ御審議アラムコトヲ望ミマ
ス、之ヲ以テ一言開會ノ御挨拶ト致シマス

(拍手起ル)

午後二時十分開會式畢

全 二時十一分開會

出席議員三十五名左ノ如シ

- | | | | |
|------|--------|------|---------|
| 一 番 | 小金忠次郎 | 二 番 | 庄司權之助 |
| 三 番 | 三村啓作 | 四 番 | 榎本恭三 |
| 五 番 | 染谷徳平 | 六 番 | 小林活造 |
| 八 番 | 新堀源兵衛 | 九 番 | 宇田吉五郎 |
| 十一番 | 中村瀨左衛門 | 十二番 | 藤里堅誠 |
| 十三番 | 菅沼保之輔 | 十四番 | 小島仁之助 |
| 十五番 | 山下精吾 | 十六番 | 岡本源次郎 |
| 十七番 | 高下鶯藏 | 十八番 | 竹内定吉 |
| 十九番 | 加藤銀藏 | 二十一番 | 大久保 宇之助 |
| 二十三番 | 吉田義之 | 二十四番 | 平沼亮三 |

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 二十五番 | 椎橋仁助 | 二十六番 | 加藤小兵衛 |
| 二十八番 | 池田勝次郎 | 二十九番 | 安田健司 |
| 三十番 | 城所源助 | 三十一番 | 繁田五郎 |
| 三十二番 | 池上幸操 | 三十三番 | 野方次郎 |
| 三十四番 | 沼田雅司 | 三十五番 | 高橋元次郎 |
| 三十六番 | 小串清一 | 三十七番 | 牧内元太郎 |
| 三十八番 | 伊澤庸次郎 | 三十九番 | 上郎清助 |
| 四十番 | 三木調造 | | |

番外二番	松原内務部長
同 四番	安藤理事官

中略

○議長(上郎清助)日程ニ入ル前ニ數通ノ建議案ガ出テ居リ

マス、是ハ唯今知事カラモ皆様ニ御話ガゴザイマシタガ、此度ノ大震大火ハ空前ノ慘事デゴザイマシテ或ハ家ヲ焼カレ、或ハ妻子ニ別レ、甚ダ畏レ多イ話デアリマスガ、竹ノ園生ノ御方ニスラモ間違ガアツタト云フコトハ、臣子トシテ恐懼ニ堪ヘヌコトデアリマス、隨テ物情騒然タル折ニ、此ノ状態ヲ聞シ召サレテ 陛下ノ御内帑ヨリシテ莫大ノ御下賜金ガ御座イマシタ、又畏レ多イコトデアリマスガ 皇后陛下並ニ 攝政殿下ニハ親シク此ノ慘狀ヲ憐ナハサレタコトデアリマス、又陸海軍ニ於キマシテハ此ノ思召ヲ體セラレテ本縣ニ臨マレテ、一般ノ警備或ハ諸般ノ復舊等ニ非常ニ盡力ヲサレテ居リマス、又一般府縣、或ハ外國アタリカラマデモ此ノ模様ヲ聞カレテ非常ナ御同情ヲ寄セラレ

マシタ、我々モドウ成リ行クカト思ツテ居ツタノガ今日斯ウシテ皆様ト無事ニ御目ニ掛ルコトガ出來ルヤウニナツタノデアリマス、此ノ建議案ノ大要ヲ拜シテ見マス、之ニ對シ御禮ヲ申上ゲルト云フ意味ノヤウデアリマス、私ハ謹ンデ之ヲ朗讀致シマス、事 皇室ニモ關スル事デアリマスカラ敬意ヲ表スル爲ニ諸君ノ御起立ヲ乞ヒタイト思ヒマス

(全員總起立)

今次ノ大震災ハ史乘未曾有ノ慘禍ニシテ其ノ區域ハ實ニ一府四縣ニ亘リ殊ニ我縣下ニ於テ最モ劇甚ヲ極ム畏クモ、至仁至慈ナル 聖上陛下ニハ其ノ凄慘ナル慘狀ヲ被聞食賑恤ノ思召ヲ以テ特ニ御内帑金壹千萬圓ヲ下賜セラレ本縣ニ貳百五拾壹萬餘圓ノ頒賜ヲ拜ス、皇恩ノ優渥ナル洵ニ恐懼感

激ノ至リニ堪ヘス、茲ニ本縣會ノ議決ヲ經縣民ニ代リ謹ミ
テ御禮ノ誠意ヲ表シ併セテ天機ヲ伺ヒ奉ル
右執奏方御取計相成度候

大正十二年十一月 日

神奈川縣會議長 上 郎 清 助

宮内大臣子爵 牧野伸顯殿

提出者

榎 本 恭 三
平 沼 亮 三
加 藤 銀 藏
池 田 勝 次 郎

小 林 活 造
高 橋 元 次 郎
繁 田 五 郎
森 田 伊 助
中 村 瀨 左 衛 門
新 堀 源 兵 衛
三 村 啓 作
小 島 仁 之 助
沼 田 雅 司
三 木 調 造
大 久 保 宇 之 助
染 谷 德 平

賛成者

小	庄	伊	宇	高	中	椎	吉	安	小	池
串	司	澤	田	下	田	橋	田	田	金	上
清	權	庸	吉	驚	壽	仁	義	健	忠	幸
一	之	次	五	藏	一	助	之	司	次	操
	助	郎	郎	藏	郎	助	之	司	郎	操

○議長(上郎清助)是ハ直チニ採決致シタイト思ヒマス
 ○四番(榎本恭三)唯今御朗讀ニナリマシタヤウナ次第デ
 聖恩ノ辱ナキヲ御禮ヲ申上ゲル爲ニ提出致シマシタノデゴ

野	山	岡	加	藤	竹	牧	菅	城
方	下	本	藤	里	内	内	沼	所
次	精	源	小	堅	定	元	保	源
郎	吾	郎	兵	誠	吉	太	之	助
			衛	誠	吉	郎	輔	

ザイマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

○議長(上郎清助)是ハ二次會、三次會ヲ省略致シマシテ直チニ之ヲ以テ確定議ト致シタイト思ヒマス

(「賛成」ト呼ブ者アリ)

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(上郎清助)御異議ガアリマセヌカラ之ヲ確定議ト致シマシテ、直チニ決定致シタコトニ致シマシテ、執奏ノ手續ヲ致シマス

二十番(森田伊助)遅刻

○議長(上郎清助)次ニ此度ハ皇后陛下ニ對スル御禮ノ意味デゴザイマス、是モ御起立ヲ願ヒマス

(全員總起立)

○議長(上郎清助)謹ンデ朗讀致シマス

今次ノ大震災ハ史乘未曾有ノ慘禍ニシテ其ノ區域ハ實ニ一府四縣ニ亘リ殊ニ我縣下ニ於テ最モ劇甚ヲ極ム畏クモ至仁至慈ナル皇后陛下ニハ本縣下ニ行啓被爲在親シク慘狀ヲ御視察遊ハサレ特ニ傷病者ニ對シ御慰撫ヲ給ハル皇恩ノ優渥ナル洵ニ恐懼感激ノ至リニ堪ヘス茲ニ本縣會ノ決議ヲ經縣民ニ代リ謹ンテ御禮ノ誠意ヲ表シ併テ御機嫌ヲ伺ヒ奉ル右執奏方御取計相成度候

大正十二年十一月 日

神奈川縣會議長 上郎 清助

宮内大臣子爵 牧野伸顯殿

提

出者

五四

三	新	中	森	繁	高	小	池	加	平	榎	出
村	堀	村	田	田	橋	林	田	藤	沼	本	者
啓	源	瀨	伊	五	元	活	勝	銀	亮	恭	
作	兵	左	助	郎	次	造	次	藏	三	三	
	衛	衛									

贊

高	椎	吉	中	安	小	池	成	大	三	沼	小
下	橋	田	田	田	金	上	者	久	木	田	島
驚	仁	義	壽	健	忠	幸		保	調	雅	仁
藏	助	之	一	司	次	操		宇	之	之	之
								之	造	司	助

五五

山	岡	加	藤	竹	牧	菅	城	小	庄	伊	宇
下	本	藤	里	内	内	沼	所	串	司	澤	田
精	源	小	堅	定	元	保	源	清	權	庸	吉
吾	次	兵	誠	吉	太	之	助	一	之	次	五
	郎	衛		郎	郎	輔	助	助	助	郎	郎

野 方 次 郎

○議長(上郎清助)ソレデハ又色々會議法ニ依ツテ起立ニ問フ筈デアリマスカラ、一度御着席ヲ願ヒマス

○二十四番(平沼亮三)本案モ前案通り御即決ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(上郎清助)本案モ二次會、三次會ヲ省略シマシテ直チニ確定議トシタイト思ヒマス
御同意ノ方ハ起立ヲ願ヒマス

起 立 總 員

○議長(上郎清助)總起立ニ依ツテ確定致シマシタ、直ニ手續ヲ致シマス、此度ハ攝政宮殿下ニ對スル分デアリマス
御起立ヲ願ヒマス

(全員總起立)

○議長(上郎清助)謹ンデ朗讀致シマス
這回ノ大震災ハ史乘未曾有ノ慘禍ニシテ其ノ區域實ニ一府
四縣ニ亘リ殊ニ我縣下ニ於テ最モ劇甚ヲ極ム畏クモ至孝至
仁ナル 攝政殿下ニハ本縣下ニ行啓被爲在親シク慘狀及救
護ノ實況ヲ御視察遊バサレ慰撫ノ仁慈ヲ垂レ給フ 皇恩ノ
優渥ナル縣民一同ノ感激措ク能ハザル所ニシテ洵ニ恐懼ノ
至リニ堪ヘズ茲ニ本縣會ノ議決ヲ經縣民ニ代リ謹ミテ御禮
ノ誠意ヲ表シ併セテ御機嫌ヲ伺ヒ奉ル
右言上方御取計相成度候

大正十二年十一月 日

神奈川縣會議長 上郎清助

東宮大夫伯爵 珍田捨巳殿

提出者

新	中	森	繁	高	小	池	加	平	榎
堀	村	田	田	橋	林	田	藤	沼	本
源	瀨	伊	五	元	活	勝	銀	亮	恭
兵	左		郎	次	造	次	藏	三	三
衛	衛	助	郎	郎	造	郎	藏	三	三

吉 義 仁 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之
田 橋 壽 庸 權 串 所 保 之 輔 助 一 助 郎 郎 助 之

六二

衛 誠 吉 郎 輔 助 一 助 郎 郎 助 之

贊

三 村 啓 之 作
小 島 仁 之
沼 田 雅 司 助
三 木 田 調 造
大 久 保 宇 之
染 谷 德 平
成 者 谷 德 平
池 上 幸 操
小 金 忠 次 郎
安 田 健 司
高 下 鷺 藏
宇 田 吉 五 郎

岡 本 源 次 郎
山 下 精 吾
野 方 次 郎

○議長(上郎清助)御着席ヲ願ツテ

○十九番(加藤銀藏)矢張提出致シマシタ理由ハ唯今御朗讀ニナツタ通りデアリマス、直チニ御即決ヲ願フト同時ニ、満場ノ御賛成ヲ願ヒマス

○議長(上郎清助)ソレデハ是レモ御異議ガナケレバ二次會三次會ヲ省略シテ、直チニ確定議トシタイト思ヒマス
(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(上郎清助)然ラバ御同意ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス
起 立 總 員

○議長(上郎清助)總起立ニ依ツテ本案ハ確定致シマシタ、直チニ其ノ手續ヲ致シマス、次ニ陸海軍ニ對スル感謝狀デゴザイマス、是レハ書記ニ朗讀ヲサセマス
(書記朗讀)

感 謝 狀

今次ノ大震災ハ史乘未曾有ノ慘禍ニシテ其ノ區域ハ實ニ一府四縣ニ亘リ殊ニ我縣下ニ於テ最モ劇甚ヲ極ム幾十萬ノ罹災民ハ忽チ住居ヲ失ヒ饑餓ニ迫リ物情騷然トシテ流言蜚語所在ニ傳播シ秩序大ニ紊レントスルニ際シ之カ警備ニ日夜盡瘁シテ縣下ノ安寧秩序ノ維持ニ力メラレ或ハ避難者ノ輸送及物資ノ運搬配給ニ將又交通運輸ノ開通或ハ通信機關ノ復舊等ニ全力ヲ傾倒シ以テ克ク一世ノ危難ヲ救護セラレ茲

ニ於テ人心初メテ安定ニ向ヒ復興ノ氣運漸ク萌スルニ至レ
ルモノ是レ職ハラ軍事當局ノ處置宜シキヲ制シタルト熱誠
ナル將卒諸士ノ努力トニ由ル其ノ辛酸ナル勤務ト顯著ナル
功績トハ我縣民ノ牢記シテ永ク忘ル能ハザル所ナリ茲ニ本
縣會ノ議決ヲ經縣民ヲ代表シ衷心感謝ノ誠意ヲ表ス

大正十二年十一月 日

神奈川縣會議長 上 郎 清 助

海 軍 大 臣 財 部 彪 殿

陸軍大臣男爵 田 中 義 一 殿

橫須賀鎮守府 野間口兼雄殿 (各通)

司令長官 小林 躋 造 殿

元戒嚴司令官 福田雅太郎殿
元戒嚴司令官 山梨半造殿

提 出 者

榎 本 恭 三
平 沼 亮 三
加 藤 銀 藏
池 田 勝 次 郎
小 林 活 造 郎
高 橋 元 次 郎
繁 田 五 郎
森 田 伊 助
中 村 瀨 左 衛 門

岡竹牧菅城小庄伊中椎吉宇
 本内沼所串司澤田橋田
 源元保源清權庸壽仁義
 次定太之助一助郎郎助之郎
 岡竹牧菅城小庄伊中椎吉宇
 本内沼所串司澤田橋田
 源元保源清權庸壽仁義
 次定太之助一助郎郎助之郎

贊

高安小池成染大三沼小三新
 下田金上者久保木田村堀
 鷺健忠幸德宇調雅仁之啓源
 藏司郎操平助造司助作衛
 高安小池成染大三沼小三新
 下田金上者久保木田村堀
 鷺健忠幸德宇調雅仁之啓源
 藏司郎操平助造司助作衛

藤里堅誠
加藤小兵衛
野方次郎

○三十一番(繁田五郎)本員ハ提出者ヲ代表致シマシテ簡單ニ提出ノ理由ヲ敷衍致シタイト思ヒマス、去ル九月一日ノ大震災ハ實ニ前古未曾有デアリマス、其ノ慘狀ノ爲ニ秩序ハ漸ク紊亂シ不良ノ徒ハ縣下ヲ横行シテ掠奪ヲ恣ニシ縣民ハ殆ンド恐怖ノ極度ニ達シテ居リマシタ此時ニ當リマシテ所謂戒嚴令ガ公布サレルト共ニ軍旗ガ本縣下ニ翻リ、海軍ノ艦艦ハ横濱ノ埠頭ニ錨ヲ投ジマシタ時ハ、縣民ハホツトシテ胸ヲ撫テ下ロシタノデアリマス、ト同時ニ陸軍ハ直チニ行動ヲ始メ紊亂シタル秩序ヲ恢復シ、不良ノ徒ヲ壓迫シ

特ニ我々ガ衷心忘ルベカラザル事ハ、我々共見モ聞キモシナイ所謂工兵隊ノ大活動デアリマス、交通狀態ガ全ク杜絶シテ糧道ヲ絶チ、縣民ハ殆ンド饑餓ニ垂々トシテ居ル時ニ方ツテ工兵隊ハ寢食ヲ忘レテ電信、電話ノ架設、橋梁ノ架替マデニ從事セラレテ、サウシテ瞬ク間ニ交通ノ大半ヲ恢復シテ糧道ノ融通等ヲサレルニ付テハ、實ニ感謝ニ堪ヘヌノデアリマス、尙ホ海軍ニ於キマシテモ決シテ之ニ讓ラナイ、艦艦ヲ以テ糧食ヲ運搬シ、建築材料マデモ運搬シ、其ノ陸揚マデモ兵士ノ手ニ依ツテ成立ツタト云フコトハ、誠ニ我々縣民トシテ有難ク感謝スル次第デアリマス、此時ニ方ツテ我々ノ感想ハ如何デアリマシタラウ、現在難儀シテ居ル國民ハ意ヲ安ウシテ可ナリト云ツテ涙ノ溢レル程嬉シ

セ〇
カツタノハ此時デアリマス、之ニ依ツテ我々ハ滿腔ノ誠意
ヲ以テ感謝ノ意ヲ表シタイト思ヒマスカラ、此ノ建議案ヲ
提出シタ次第デアリマス、ドウカ滿場ノ諸君御賛成アラム
コトヲ希望シマス

○四番(榎本恭三)三十一番ニ賛成

(「讀會省略」ト呼ブ者アリ)

○三十二番(池上幸操)三十一番ニ賛成、而シテ讀會ヲ省略
シテ直チニ議決アラムコトヲ希望シマス

○議長(上郎清助)本建議案ハ成規ノ賛成ガアツテ議題トナ
リマシタ、御異議ガナケレバ是モ二次會、三次會ヲ省略シ
一次會ヲ以テ確定議トシタイト思ヒマス

(「異議ナシ」ト呼ブ者アリ)

○議長(上郎清助)然ラバ左様取計ヒマス、御同意ノ諸君ハ
起立ヲ願ヒマス

起立 總員

○議長(上郎清助)總起立ニ依ツテ本案ハ確定致シマシタ、
マダモウ一ツ建議案ガアルサウデスカラ、暫時休憩致シマ
ス

序

七二

大正十二年九月一日の大震災は實に青天の霹靂なり、一瞬にして此世ながらの焦熱地獄を出現し、幾萬の生靈を屠り、數十億の貨財を燒盡す、其の慘憺たる光景は今尙ほ眼前に髣髴として又言ふに忍びず、或は之を以て近時滔々浮華輕佻に墮せんとする我國民に加へられたる天譴なりと稱し、或は歐洲大戰の慘禍を免れたる東方君子國に與へられたる天警なりと解す、天意玄妙芒洋として測るべからずと雖、豈懼然として恐れ、肅然として慎まざるべけんや。

此の痛刻なる呵責と悲惨なる犠牲とに依り吾人は果して何物を學び何物を得たるや、周章、狼狽、怯懦、恐怖、殺

伐、暴戾、其の他人間のあらゆる弱點を暴露し、又各般の制度及組織は遺憾なく其の缺陷を顯はし殆んど枚舉に違あらざらんことす、之を要するに死生の間に處して如何に人間の淺間しきものなるか、如何に自然力に對して人智力の淺薄微弱なるものか、赤裸々に暴露したり、之と同時に水火の間克く堅忍、沈着、仁俠、義勇等の美德を發揮し自ら九死に一命を拾ひ、遭難の同胞を垂死の境に救ひ、巨萬の財貨を將に燒盡せんことするに保護したる等、人間の爲に氣を吐きたる者亦決して尠なしとせざるは洵に會心の欣に堪はず、實に昨秋の大地震は其の損害の慘憺を極めたるだけ、其の犠牲の莫大なるだけ、徹底的に人間界の明暗兩面を反映し、人世觀にも社會觀にも再び得べからざる教訓と體驗

七三

七四
こを贏ち得たり、若し夫れ人間の健忘なる幾星霜の後此の
一大悲劇を過去一場の悪夢として藐視するが如きことあら
ば是れ實に我民族の一大不覺にして深く慨かざるべからず
當時局に神奈川縣警察部の中樞に當りて自から生地獄の
呵責を體驗し、又自から寢食を廢し死生の巷に出入して警
備と救護とに盡し、地獄の生佛の役目を勤めたる警視西坂
勝人君は震災後の公務繁劇にして殆んど寸暇なきに拘はら
ず、歲月と共に材料の漸く湮滅せんことを憂ひ、刻苦勵精
記憶に懇へ、手記を考へ、又官公の記録報告に據りて、專
ら警察方面に關する當時の見聞と施設とを記述して以て後
日に傳へんことを、此の記録は實に千金を以てして尙ほ求む
べからざる苦験の記念にして洵に警察界の寶典と謂ふべし

前車の覆轍に鑑みて後車を戒しめ、未だ雨ふらざるに牖
戸を綯繆するは識者之を努む、大正七年来騒動の苦験に依
り創められたる官米貯藏の制が偶々昨秋の大震災に際し、
如何に偉功を奏したるかを想へば、昨秋の苦験は、更に後
日の事變に處すべき覺悟を促がさるべからず、近時隣邦
合衆國に於て歐洲大戰の跡に鑑み、頻りに「用意第一」を
標榜して「少年團」「少女團」の普及發達を獎勵し、各學校
に軍事教練を課し、或は國防デーを實施し、更に進んで傍
若無人なる大規模の海軍演習を行はんとする等日も亦足ら
ざるが如し、此の如きは以て我國民の一大警鐘として速か
に永久平和の甘夢を破るべし、之に就て想ひ起すは大地震
の當時若し我横濱市にして相當の駐兵ありたらんには、秩

序の壊敗、市民の混亂未だ彼が如く甚だしからざるを得たるべし、一衣帯水の横須賀市が海兵團及重砲兵隊の即時の出勤に依り、多大の損害を免れたるを見れば思半ばに過ぎん、言ふこと勿れ昨年の如き大地震は稀有の災厄にして容易に再來すべからず、史に徴するに概ね六、七十年を周期として關東地方に大地震の襲來するを恒とす、殊に況んや「永久平和」の如きは痴人の甘夢にして、國際間の風雲は機一髮旦夕を測るべからざるに於てをや、曩の歐洲大戰は兇暴なる兵器彈藥の發明を促がし、之に伴ふて戰術亦殘虐を極め、獨り軍人同志の殺傷に止まらずして、婦人老幼の別なく、又財貨の公私を論ぜず、一齊に殺戮破壊せざれば止まざらんとす、若し一朝敵の包圍に陥り又は空中襲撃を

蒙ることあらば、其の慘害は方に昨秋大地震以上の修羅場と化すること想像するに難からず、是に於てか米人の所謂「用意第一」の標語を思ひ、獨り市街の區畫を整理し、建築を改良する等、技術方面にのみ倚賴することなく、非常時に處すべき警備救護等に關する諸般の制度を改革し、其の施設を整へ以て有事に備ふるを要す、就中個人の心身を練り、義勇奉公の觀念を養ひ、團体的共同動作の習慣を作興するを以て最も緊要なりとす、蓋し時所の如何を問はず修練せられたる自己の心膽と體力こそ最も恃むべき友人にして又最も強力なる武器なればなり、所感を記して叙とす。

大正十三年十二月十六日

東京市外大崎の寓居に於て

安 河 内 麻 吉

天意深遠

丙寅初夏
義書齋

口 繪 目 次

皇后陛下焦土の横濱市を憐せ給ふ……………	一
攝政宮殿下焦土の横濱市を憐せ給ふ……………	二
皇后陛下災害地御巡視……………	三
各宮妃殿下の災害地御視察……………	四
震災當時の縣廳幹部……………	五
震災後の縣廳幹部……………	六
震災直後の警察幹部……………	七
震災當時の各課長（九月一日現在）……………	八
震災當時の署長（其の一）……………	九
震災當時の署長（其の二）……………	一〇
震災當時の署長（其の三）……………	一一
震災當時の署長（其の四）……………	一二
殉難警察官……………	一三

殉難警察官……………二四

功勞記章付與者……………二五

これや丸の無電に依つて急を報したる無電原稿 (其の一)……………二六

これや丸の無電に依つて急を報したる無電原稿 (其の二)……………二七

横濱市惨害全景……………二八

横濱市の惨害 神奈川縣廳々舎の残骸 (其の一) 同 (其の二) 横濱市役所の残骸……………二九

横濱市の惨害 横濱税關構内の破壊 (其の一) 同 (其の二)……………三〇

横濱市の災害 海岸通 山下町舊居留地……………三一

横濱市の惨害 山下町外國商館の惨狀 (其の一) 同 (其の二)……………三二

横濱市の惨害 關内本町通 (其の一) 同 (其の二)……………三三

横濱市の惨害 海岸通グランドホテル附近 關内本町通……………三四

横濱市の惨害 馬車道通 (其の一) 同 (其の二)……………三五

横濱市の惨害 伊勢佐木町通 (其の一) 同 (其の二)……………三六

横濱市の惨害 豊國橋及附近護岸崩壞 蓬萊橋附近道路龜裂……………三七

横濱市の惨害 橋梁の墜落燒失 櫻木町停車場の残骸及其の附近……………三八

横濱市の惨害 横濱税務署及櫻川 野毛山不動尊附近の惨狀……………一九

横濱市の惨害 横濱驛の惨害 紅葉坂下附近の大龜裂……………二〇

横濱市の惨害 埋地八ヶ町惨害 埋地七ヶ町の惨害……………三一

横濱市の惨害 石川町龜の橋附近 神奈川方面運河の惨害……………三二

横濱市の惨害 神奈川二谷橋附近 神奈川驛前附近……………三三

横濱市内に於ける給水狀況 (其の一) (其の二) (其の三)……………三四

縣廳假事務所前の宣傳揭示、警察官及軍隊の休憩……………三五

罹災民の汽車輸送、横濱市に於ける罹災兒童の野外教授……………三六

横濱公園に於ける震災歿死者追悼會……………三七

横須賀市の惨狀、横須賀市海軍の活動……………三八

鎌倉町海嘯後の惨狀、鎌倉停車場前の惨害……………三九

鎌倉町坂の下の惨狀、鎌倉巨袋坂開墾作業の工兵第十六大隊……………四〇

鎌倉町鶴ヶ岡八幡宮一の鳥居、鎌倉八幡宮社前舞殿の倒潰……………四一

鎌倉町建長寺山門の破壊、鎌倉建長寺方丈及庫裡の倒潰……………四二

鎌倉町圓覺寺舍利殿の倒潰、鎌倉光明寺方丈の倒潰……………四三

鎌倉極樂寺の倒潰 長谷大佛の移座 日蓮上人辻説法の舊蹟の破壊……………四

三崎町の惨狀、浦賀船渠會社工場の倒潰……………五

逗子町の惨狀（其の一）（其の二）（田越橋の破壊）……………六

藤澤町遊行寺中雀門の倒潰、藤澤町の惨狀……………七

震災に因りて出現したる古相模橋の橋脚、馬入鐵橋の墜落慘狀……………八

秦野町中心地の燒跡、大山町愛宕瀧附近の惨狀、大山町開山町附近の惨狀……………九

小田原町の惨狀、小田原御用邸の大龜裂……………一〇

箱根塔ノ澤崩壞の惨狀、箱根登山電車線路の崩壞……………一一

熱海線早川驛の惨狀、箱根湯本停留場附近の惨狀、熱海線根府川驛の惨狀……………一二

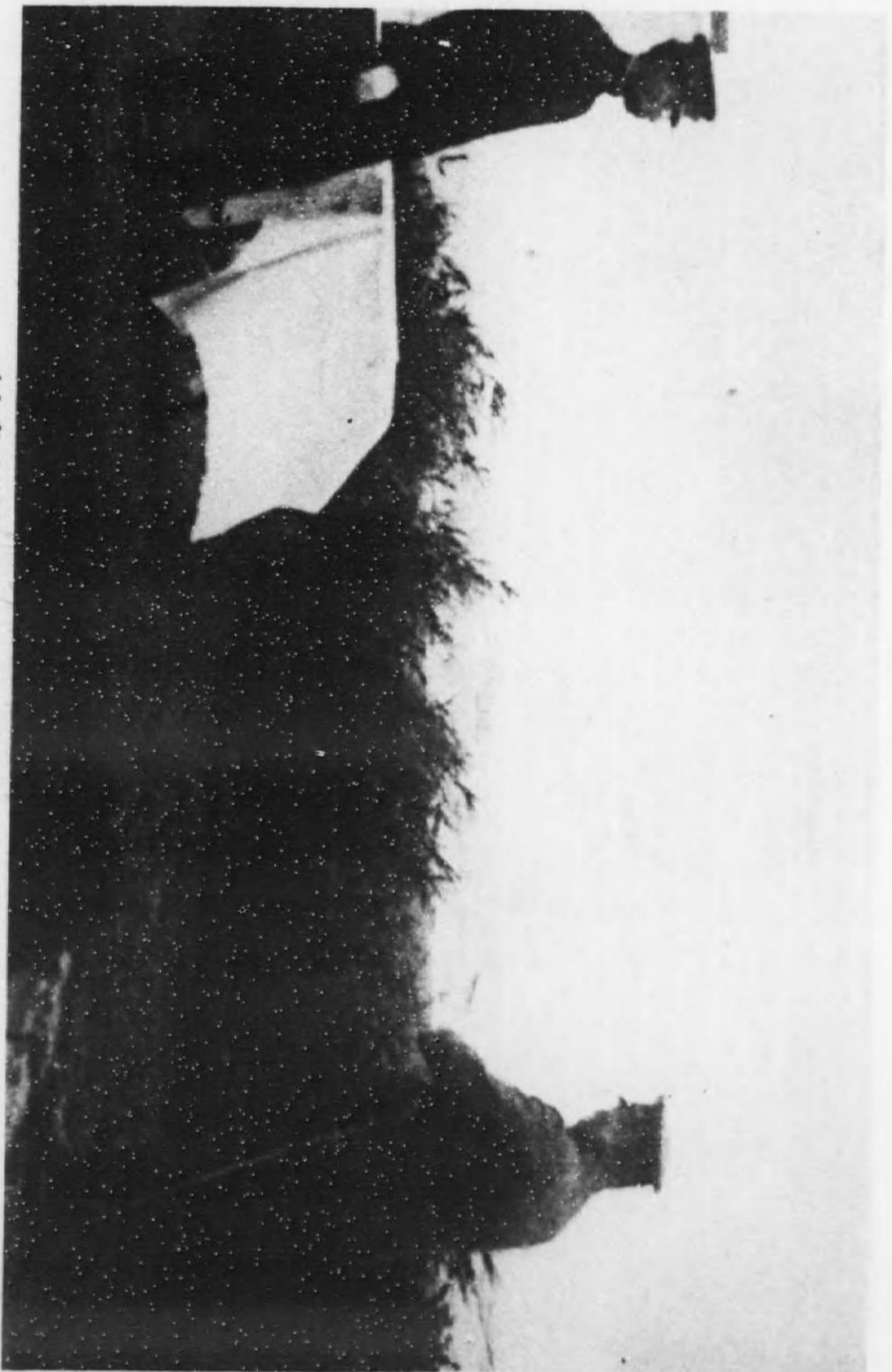
厚木町の惨狀、厚木町相模橋兩端墜落復舊工事……………一三

下野村 皇
宮給せ給を市濱廣の上集



（跡部樂具金正山勢伊於）す上言を況狀害災事知内河安

下 殿 宮 政 墟
ふ 給 せ 鬨 を 市 濱 横 の 土 焦



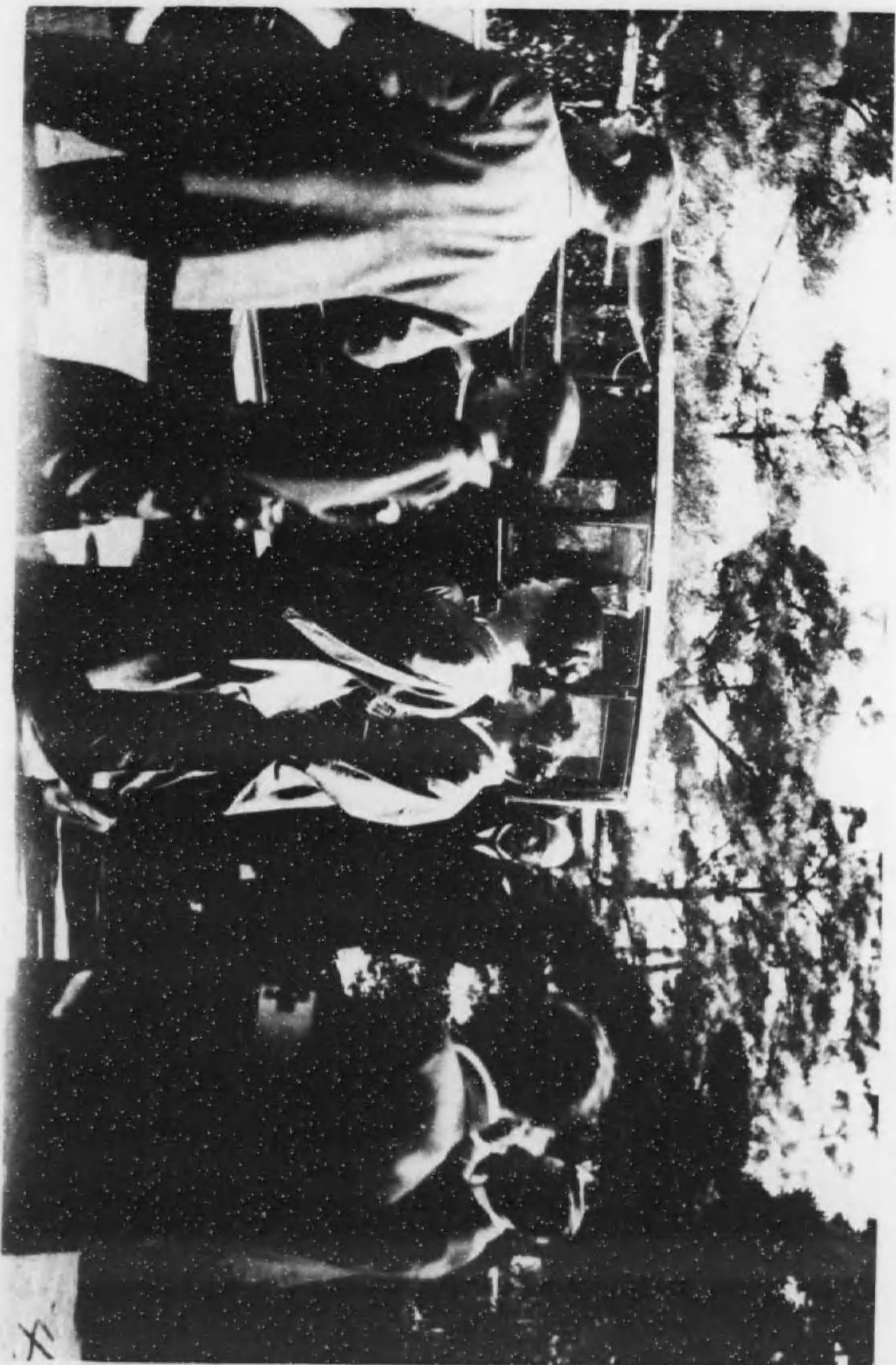
(山島高於) 才 上 言 を 況 狀 備 警 及 害 災 將 少 平 奥

視巡御地災震下陸后皇
 以を召思の恤救御はに下陸后皇 もく畏日五月一十年二十正大
 者死殃災震るけ於に園公濱横れらせらあ啓行に市濱横の土焦て
 せら成に所容收者病傷内園公全てひ續れらせらあ拜参に祭魂弔
 ふ咽に涙感りは賜を説御の慈仁御くし親れら



視巡御地災震下陸后皇
 以を召思の恤救御はに下陸后皇 もく畏日五月一十年二十正大
 字十赤本日るせ容收を者病傷れらせらあ啓行に市濱横の土焦て
 るは賜を説御るな渥優れさは遊御臨に部支縣川奈神社

下殿妃宮各
合せは舞見を(即郎三久沼平)宮内閣院病全十市濱横はに下殿妃各・宮運久東・宮見伏東・田竹



4

震災當時の縣廳幹部

松原
內務部長



安河内
知事



森岡
警察部長



部幹廳縣の後災震



市村内務部長



清野知事



石井警察部長



友部警察部長

部 幹 諸 察 警 の 後 直 災 罹
長課事外田立 長課生衛田福 長部察警岡森 長課塙上田上 長課事刑川島 (右列前)
長課務器口野 長課安保輪三 長課高特山小 長課等高坂西 官察監内山 (右列後)



(在現日一月九) 長課各の時當災震



視警川島長課事刑



官事理田上長課場工



視警口野長課務警



視警山小長課安保高特



部警坂西長課等高

長署の時當災震



視警川谷長長署察警壽



視警森長署察警町賀加



視警下木長署察警川奈神



視警川大長署上水濱横



視警藤遠長署察警部戸



視警田良長署察警町本手山



視警柴長署察警町木佐勢伊

長署の時當災震



視警木鈴長署賀須横



部警藤加長署會鎌



部警津田竹長署塚戸



部警本松長署分崎三



部警邊渡長署山葉



部警崎松長署分賀浦



部警川石長署分溝



部警野狩長署澤藤

長署の時當災震



部警岡朝長署分野秦



部警橋高長署磯大



部警邊渡長署田松



視警斐甲長署原田小



部警井福長署分原勢伊



部警野中長署田都



部警楠長署木厚

長署の時當災震



高津分署長北村警部



川崎署長太田警部



第一消防署長水岡消防士



下日分署長菊地警部



鶴見署長川警部



教習所長岡部警部



第二消防署長高橋消防士

殉職警察及消防官吏

警部補 内田静夫



巡査 須賀田彦造



巡査 阿部山藏



巡査部長 安達喜内



巡査 東野 楨



巡査 松本勝二



巡査 谷内德雄



巡査 結束徳次郎



巡査 大和田藤治



巡査 今泉雄三



巡査 木村寅松



殉職警察及消防官吏

巡查部長 三川敬次



巡查 白鳥山太郎



巡查 伊藤清一郎



巡查 半谷三郎



巡查部長 大沼芳夫



巡查 石井 艶



巡查 福島茂一



消防手 村田幸三



巡查 田中平次郎



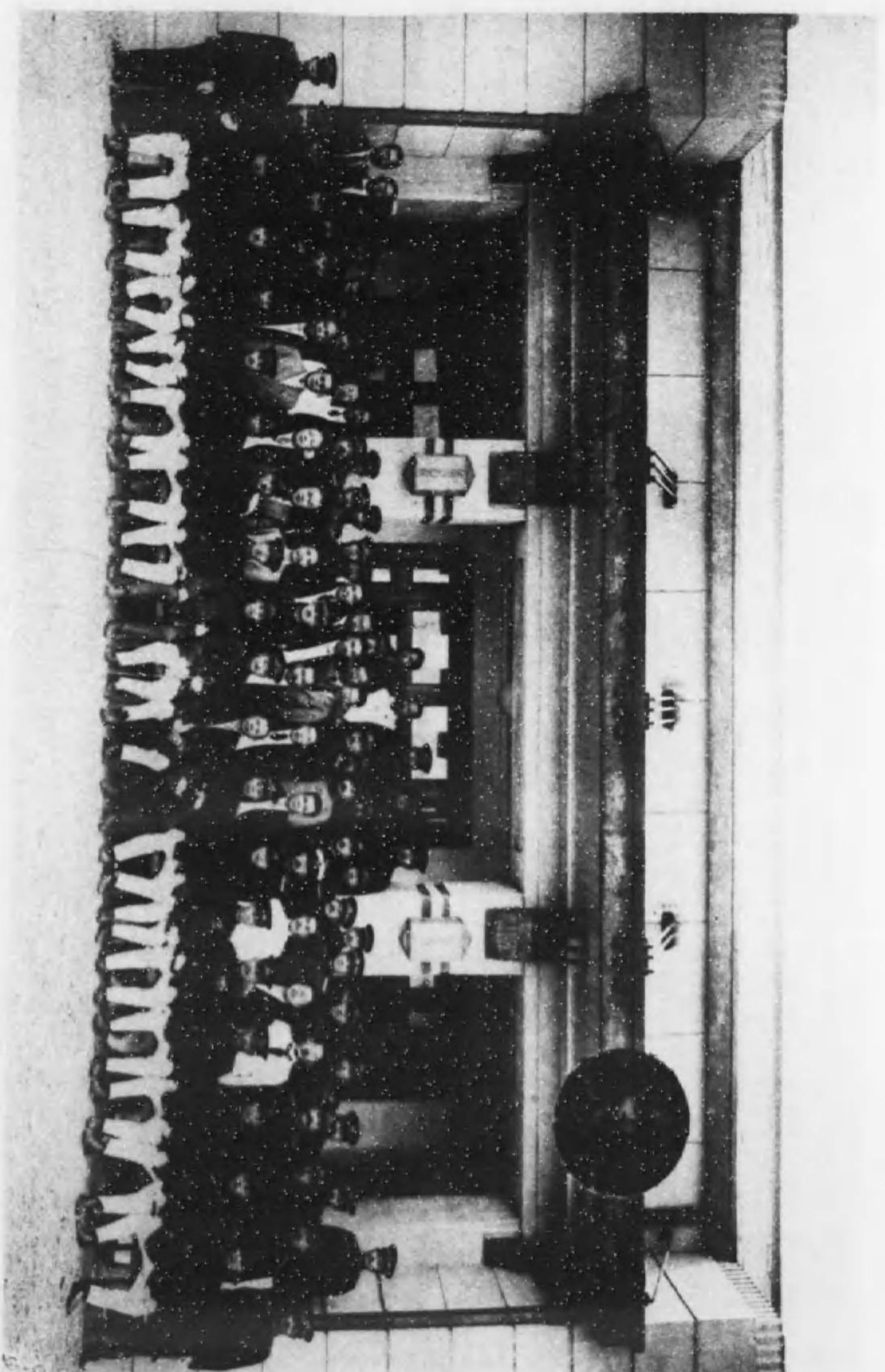
巡查 池田 萬



巡查 金森嘉兵衛

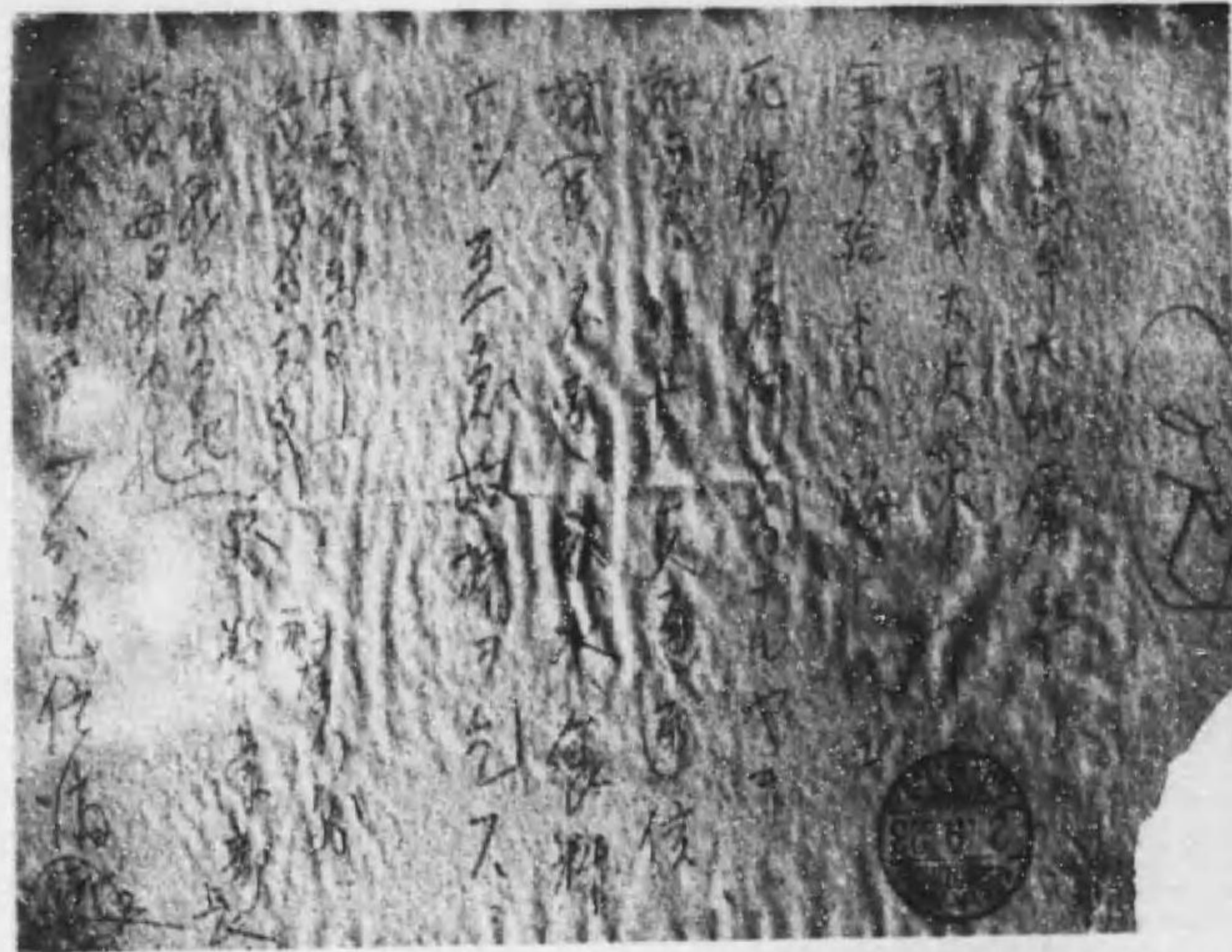


警察功勞記章授與者



前列右より
一、巡查佐藤薰司、二、巡查山本正治、三、巡查羽根井保雄、四、
巡查岡田信親、五、巡查足立喜代治、六、巡查池上八三郎、七、巡
査榎本菊蔵、八、警部出志久保品、九、清野知事、十、警部江間
寛之介、十一、警部岸本正輔、十二、永井崇、十三、巡查小野乙三
郎、十四、巡查石原廷、十五、巡查森英一、十六、巡查佐藤幾之助、
十七、巡查門倉亮、十八、巡查夏目善吉、列外、巡查石井藤一

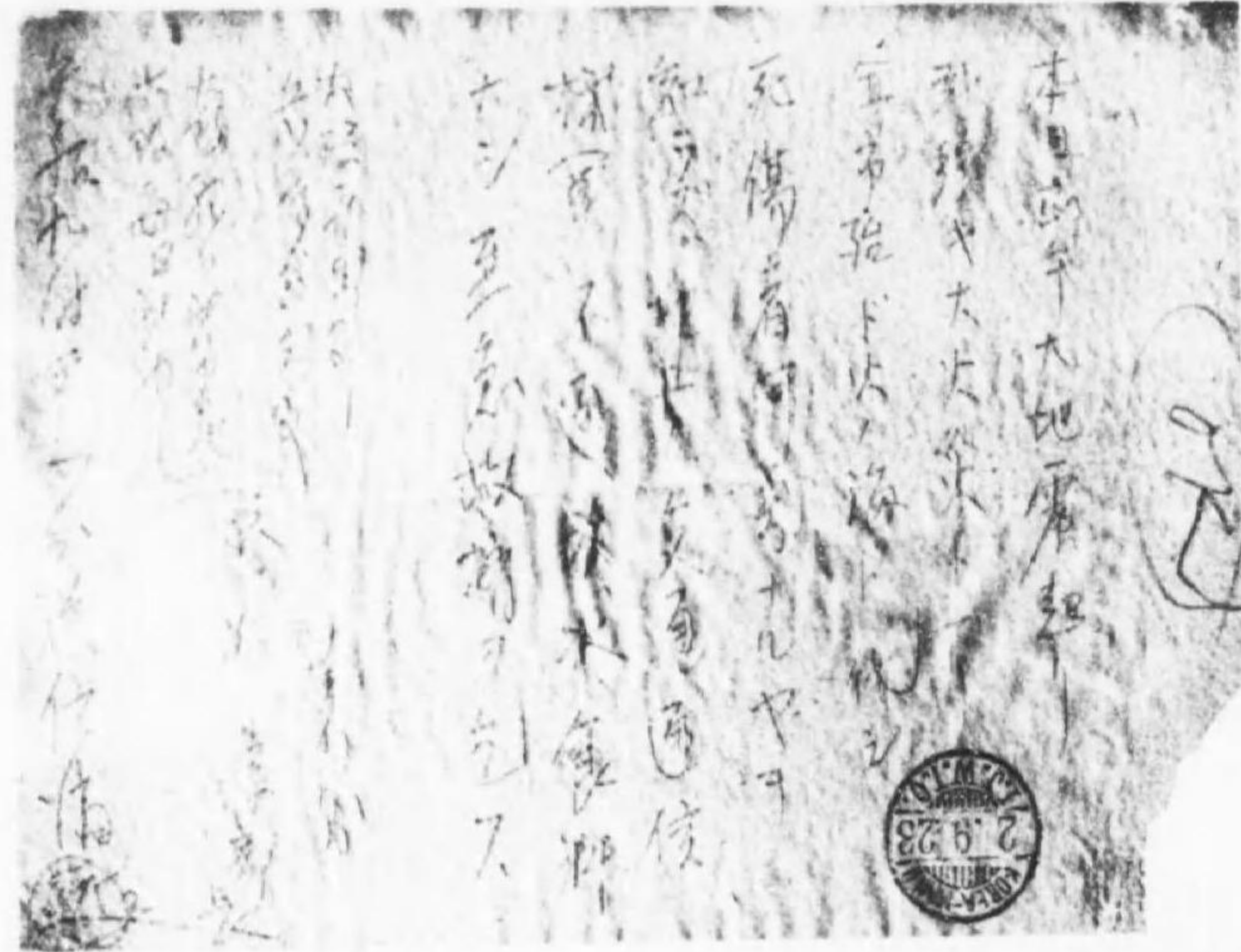
稿原電無るたし報を急てつ依に電無の丸やれこ
(一の其) 稿原の長部察警



(二の其) 全

稿原電無るたし報を急てつ依に電無の丸やれこ

(一の其) 稿原の長部察警



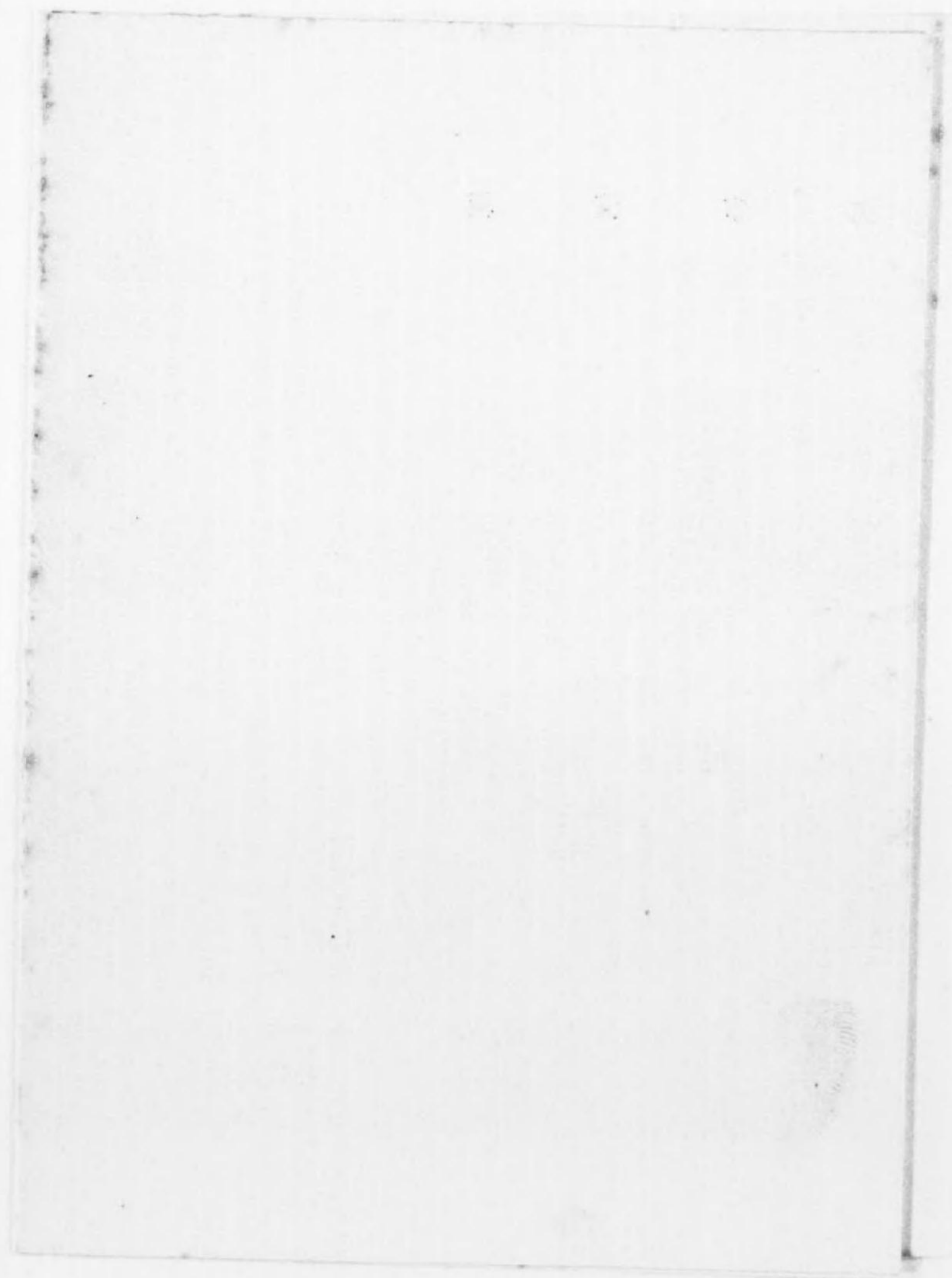
(二の其) 全

(三の其) 同



紙送		紙送報電	
月	日	月	日
シ	シ	ヒ	リ
シ	ラ	ノ	セ
ヨ	ギ	ウ	ン
タ	カ	ミ	シ
リ	ン	ト	カ
ワ	フ	カ	シ
ウ	ツ	シ	ド
ナ	ダ	シ	シ
ミ	ミ	シ	ロ
フ	ウ	シ	ロ

大阪朝日新聞に着電したる森岡部長の無電



橫濱市慘害全景



橫濱市慘害全景



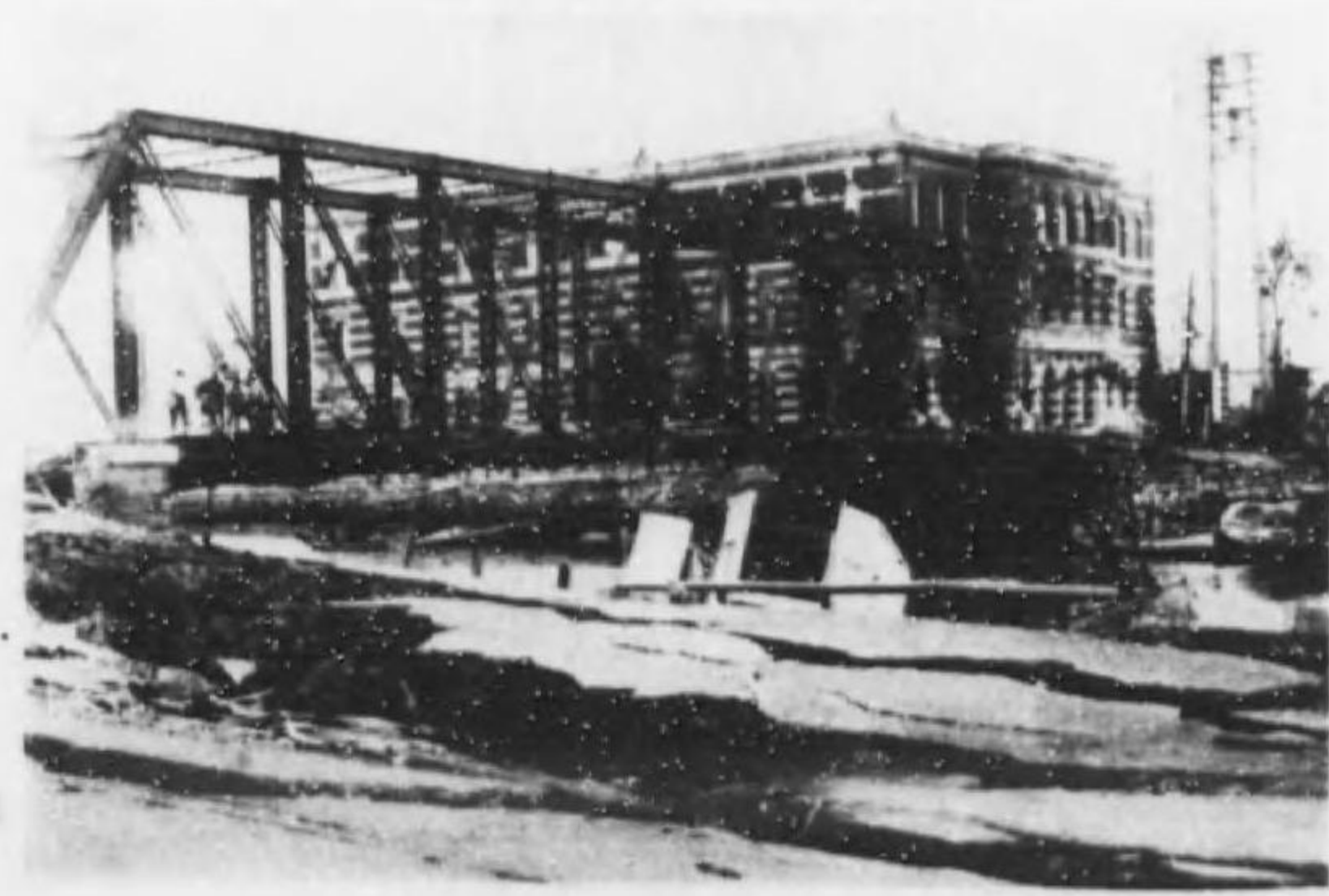
(一の其) 骸残の舎々應縣川奈神



(二の其) 骸残の舎々應縣川奈神



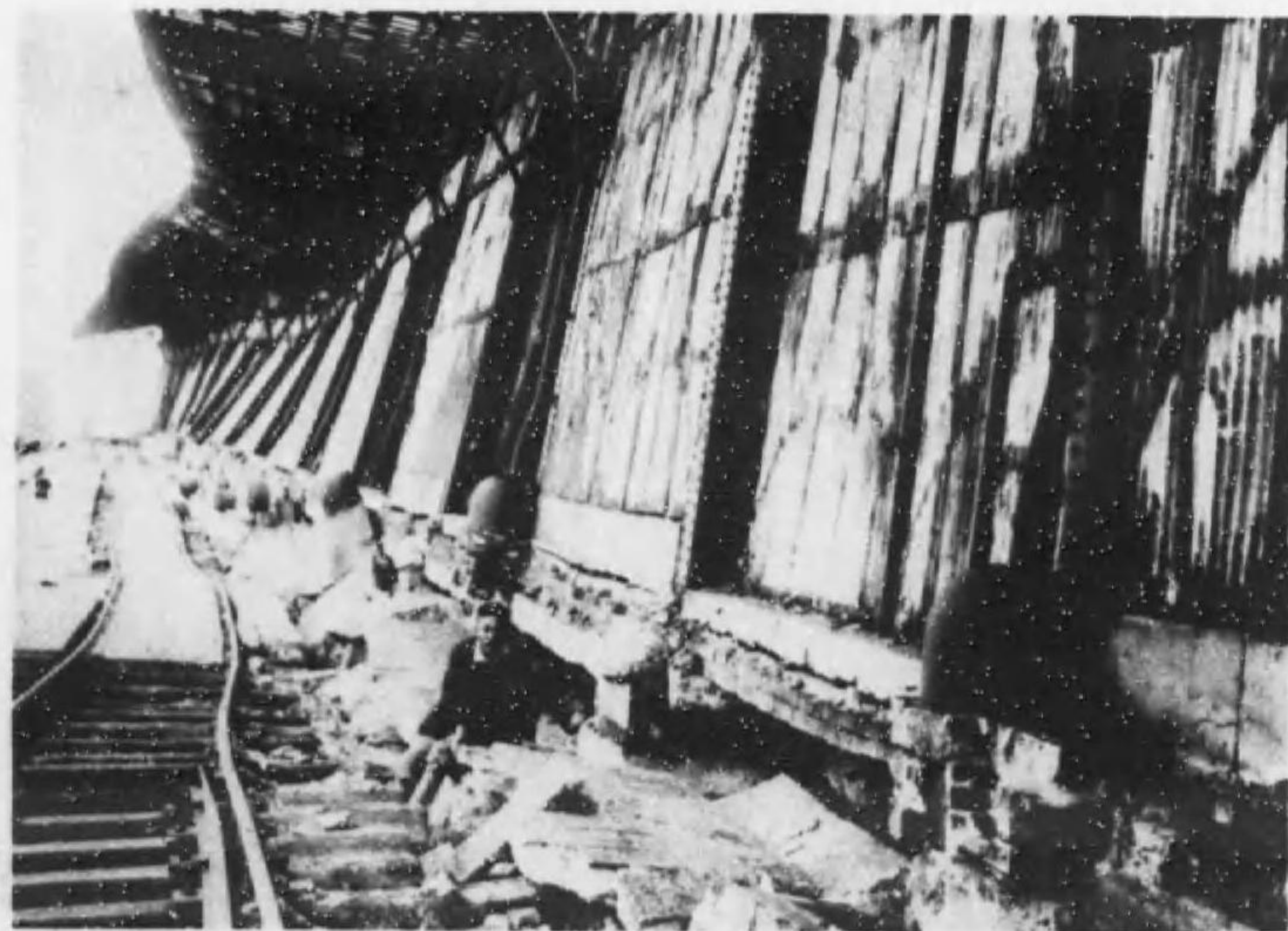
骸残の舎聽所役市濱横



(一の其) 壊破の内構税濱横



(二の其) 上 同



(通岸海) 状態の市濱横



Catastrophe of Yokohama
Yokohama Milling.
横濱港の惨状

(地留居舊町下山) 状態の市濱横



横濱市惨害居留地

(一の其) (状態の館商國外町下山) 状態の市濱横



(二の其) 上 同 状態の市濱横



(一の其) 通町本内關 狀慘の市濱横



Catastrophe of Yokohama
Honcho-dori 横濱市本町通惨害

(二の其) (上 同) 狀慘の市濱横



Catastrophe of Yokohama
Honcho-dori.

横濱市本町通惨害

(近附ルテホドンラグ通岸海) 状態の市濱横

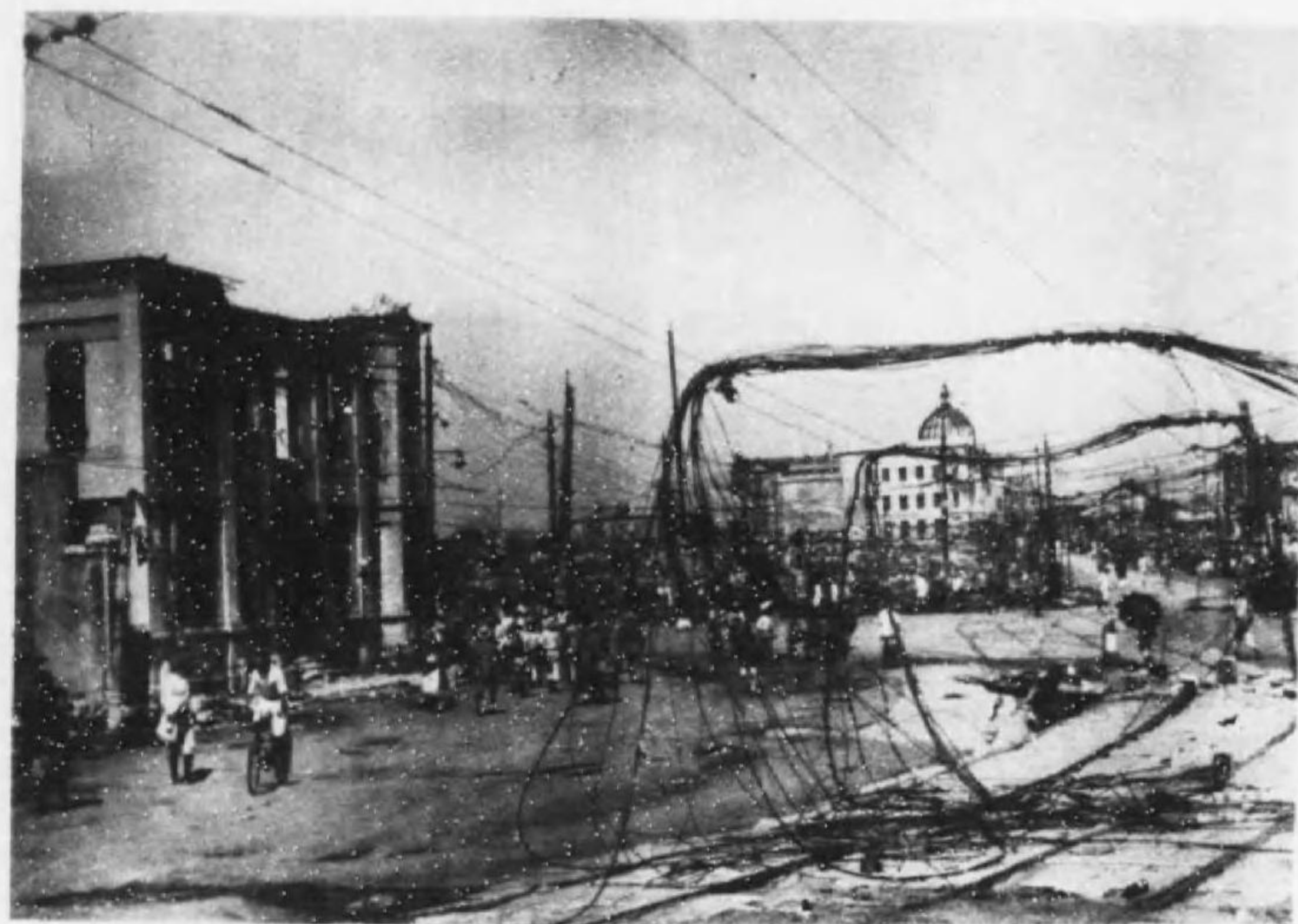


横濱市に於けるランドホテルの遺跡



(通町本内關) 状態の市濱横

(一の其) (通道車馬) 状態の市濱横



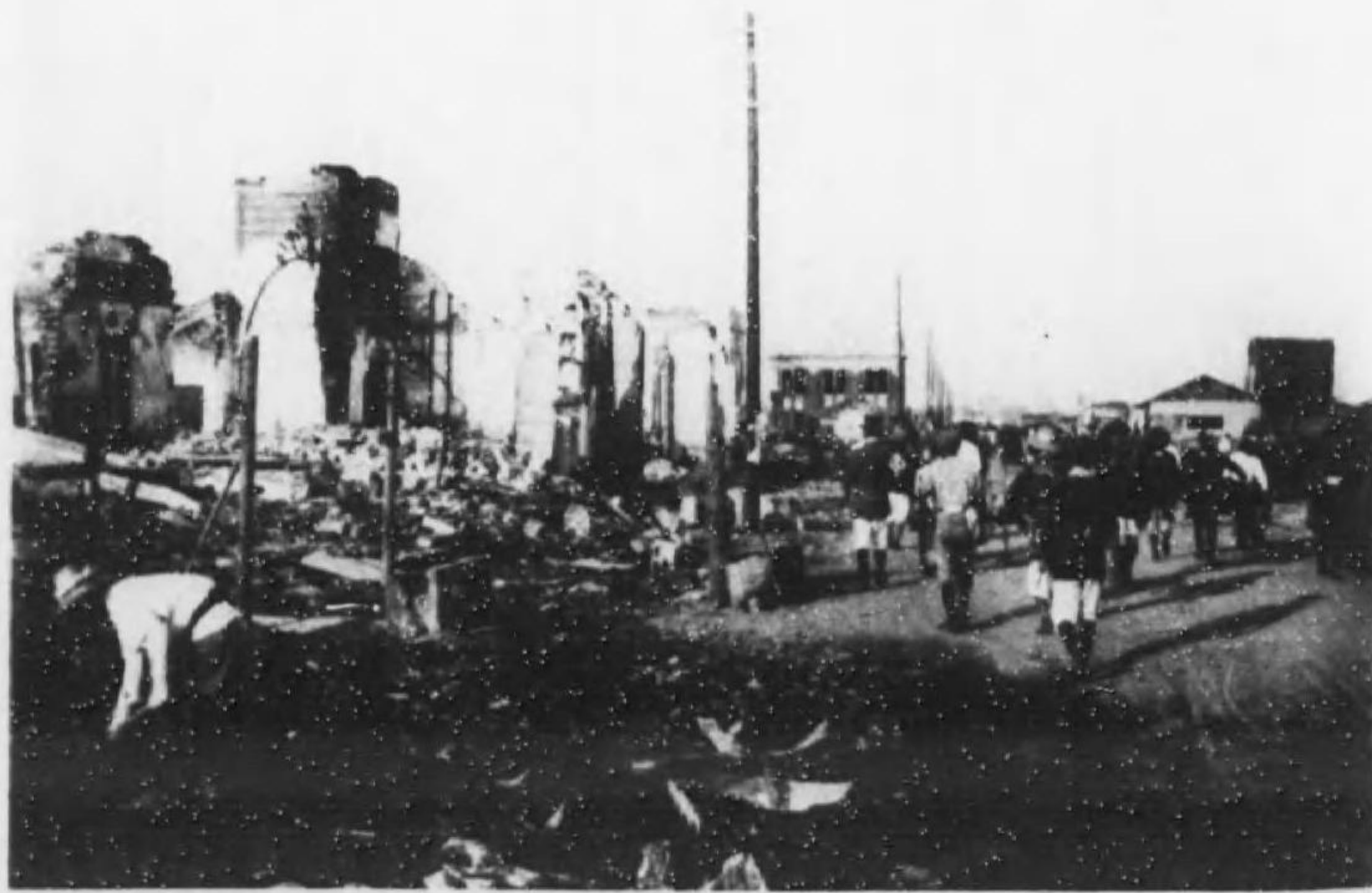
(二の其) (上 同) 状態の市濱横



(一の其) (通町木佐勢伊) 状態の市濱横



(二の其) (上同) 状態の市濱横



(壞崩岸護及近附橋國豊) 狀慘の市濱横

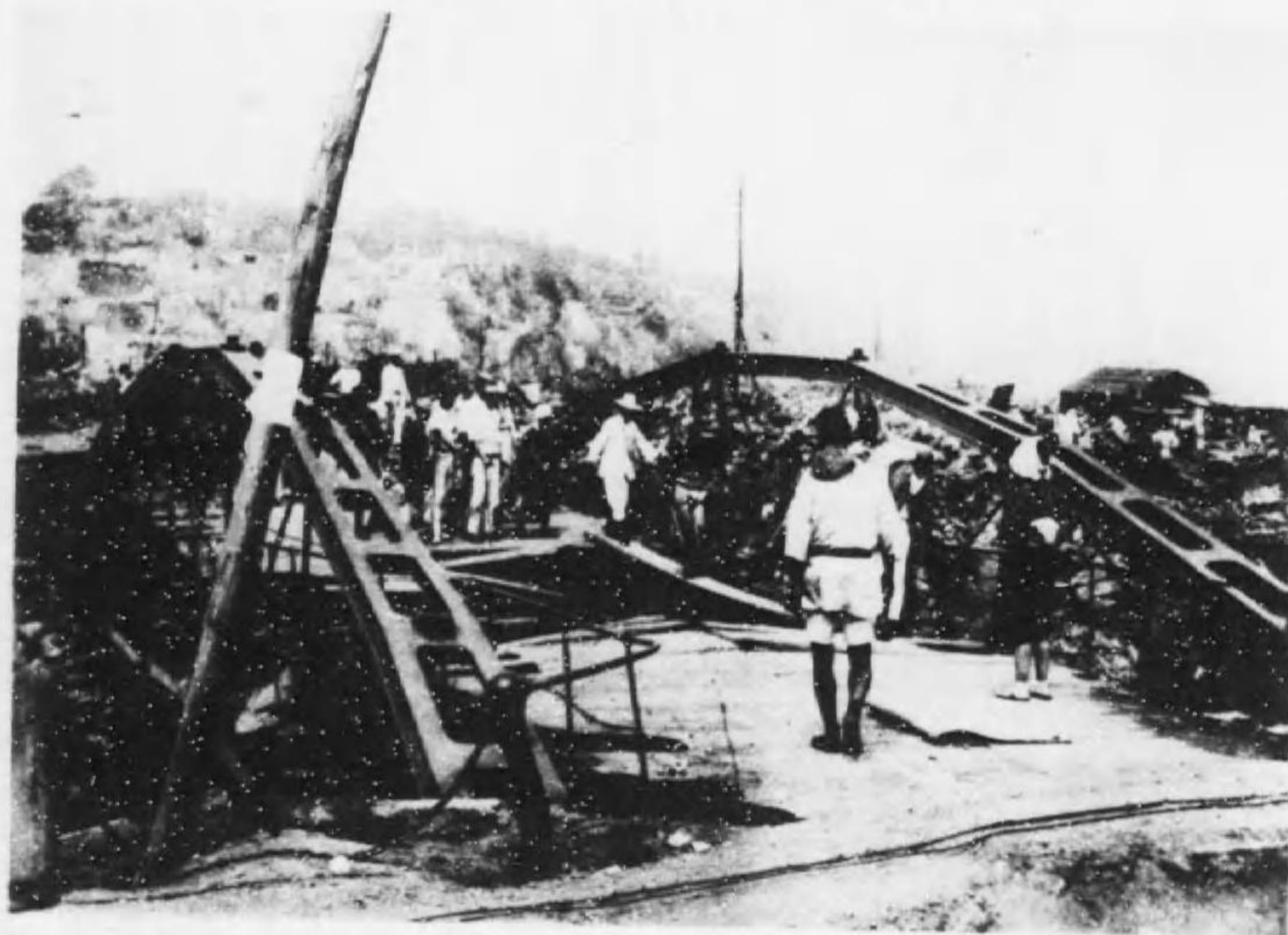


(裂龜路道近附橋菜蓬) 狀慘の市濱横



atastrophe of Yokohama.
anal-side, Horaicho.
横浜港東河原町北

(失燒落墜の梁橋) 狀慘の市濱横



(近附の其及骸殘の場車停町木櫻) 狀慘の市濱横



(川櫻及署務税濱横) 害慘の市濱横



(害慘の近附尊勳不山毛野) 害慘の市濱横

(骸惨の驛濱横) 害惨の市濱横



(裂龜大の近附下坂葉紅) 害惨の市濱横



(害慘の町ヶ八地理) 狀慘の市濱横



(害慘の町ヶ七地理) 狀慘の市濱横



(近附橋の龜町川石) 狀慘の市濱横



横濱市雪之橋

(害慘の河運面方川奈神) 狀慘の市濱横



(近附橋谷二川奈神) 状態の市濱横



(近附前驛川奈神) 状態の市濱横



横濱市内に於ける給水状況

(其の二)



(其の二)

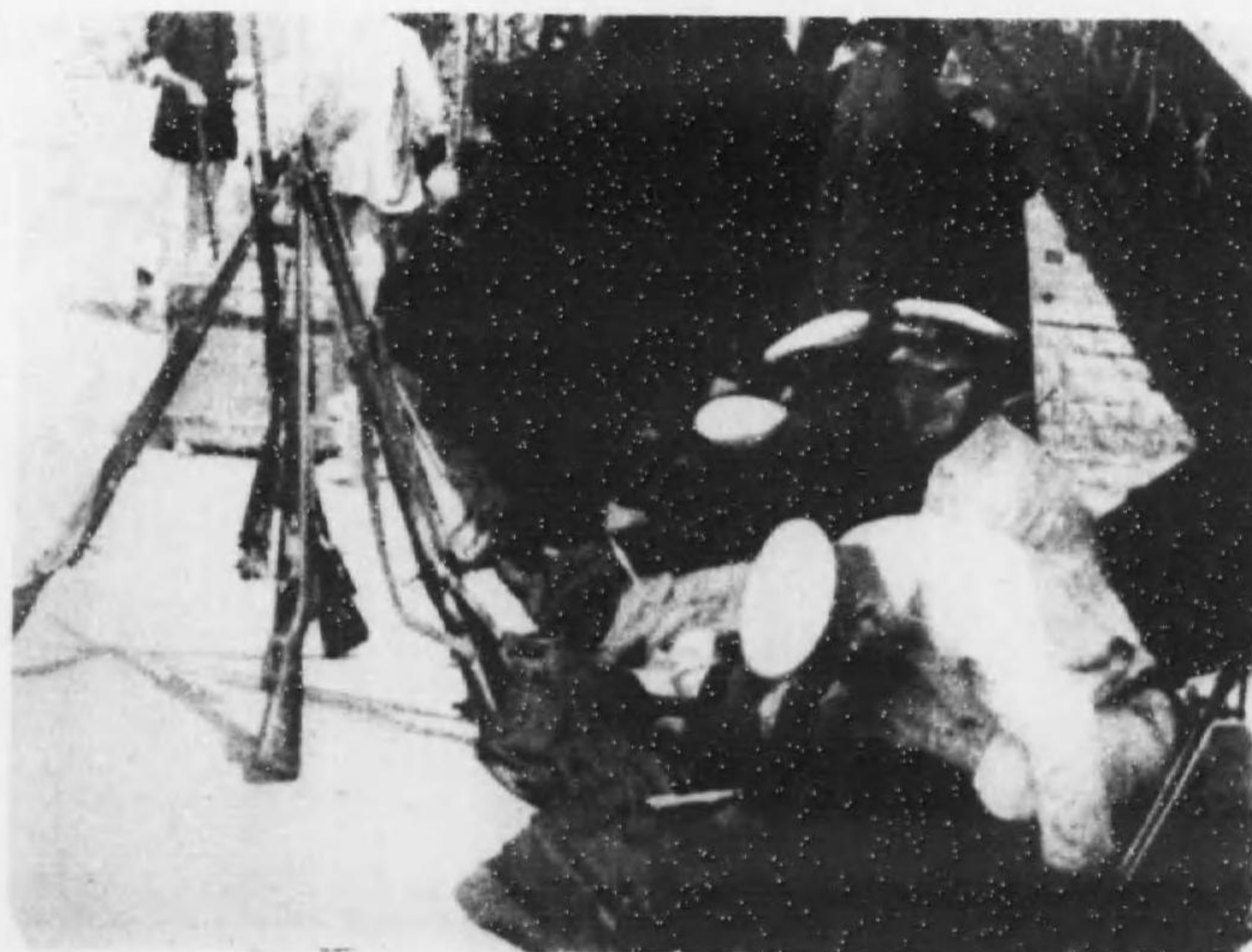
(其の三)



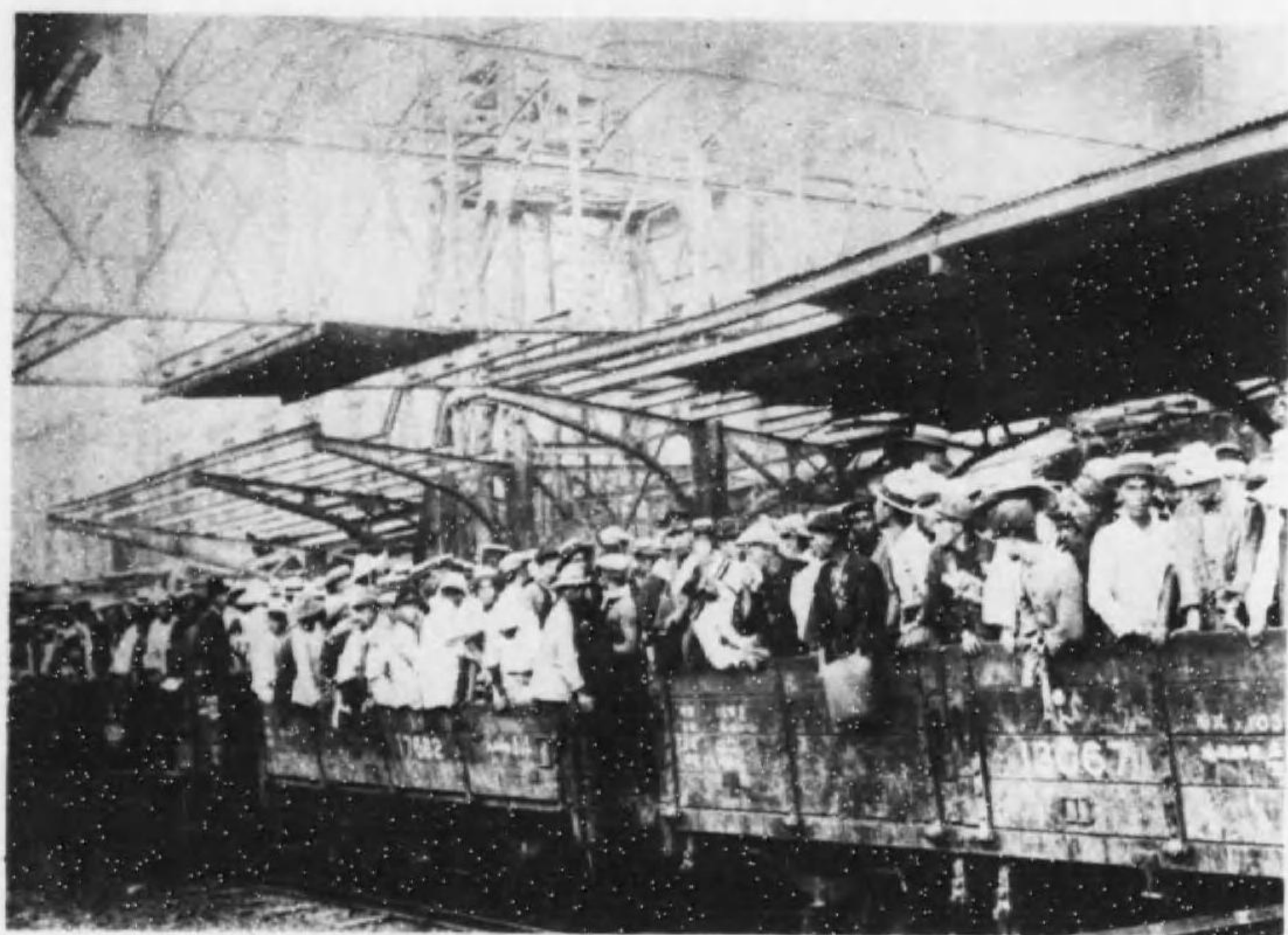
示掲傳宣の前所務事假廳縣



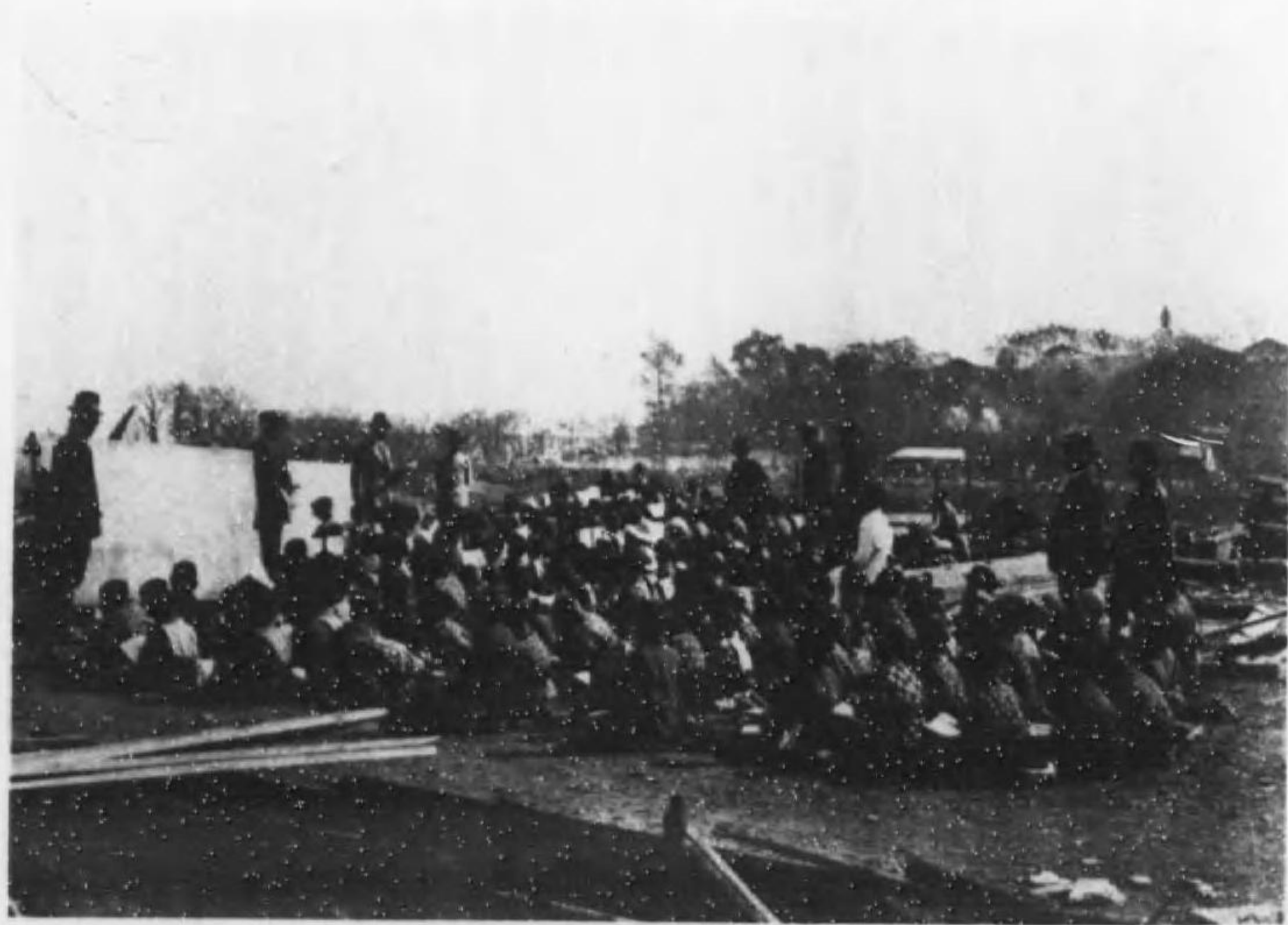
憩休の隊軍及官察警



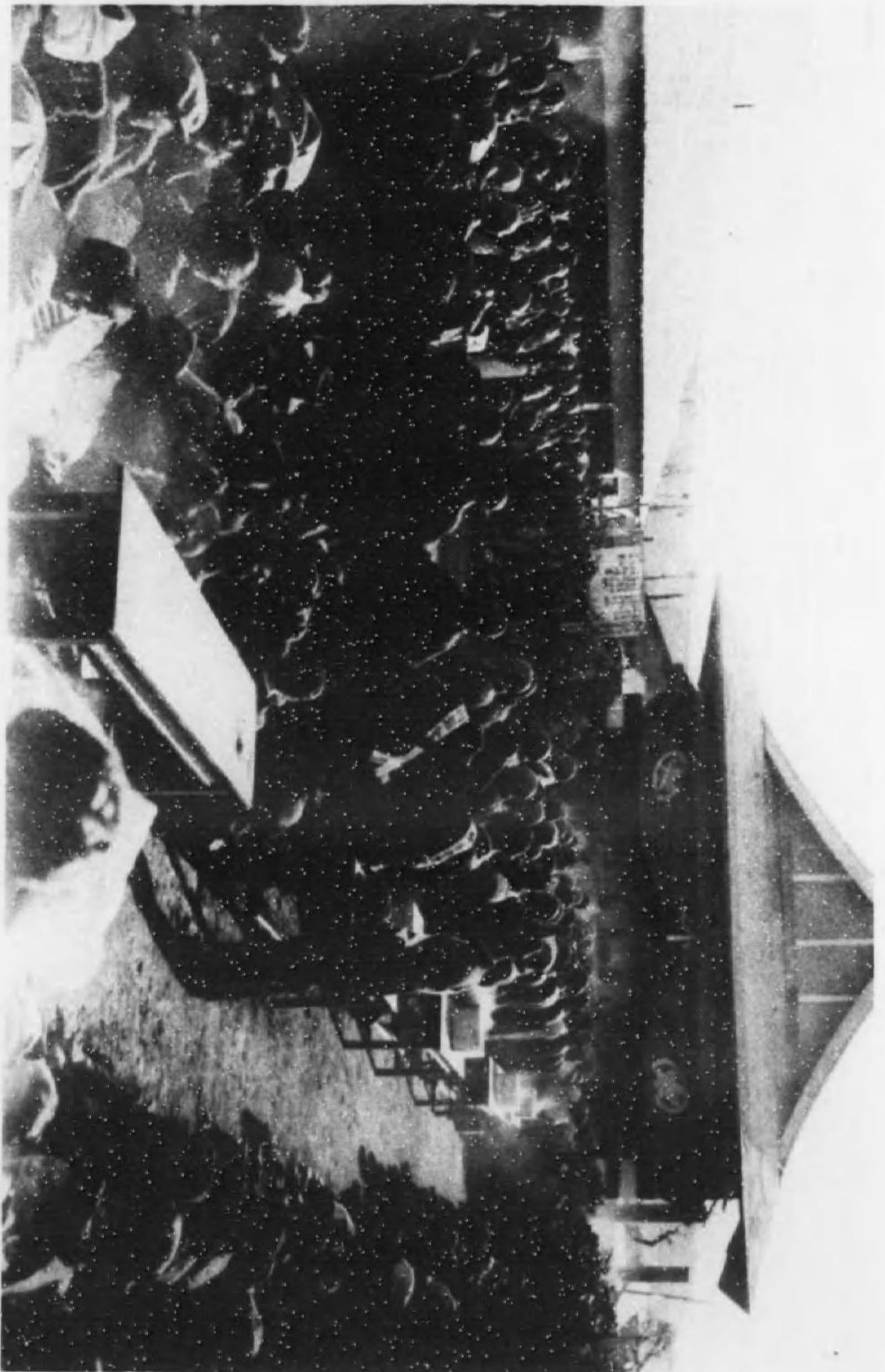
送輸車汽の民災罹



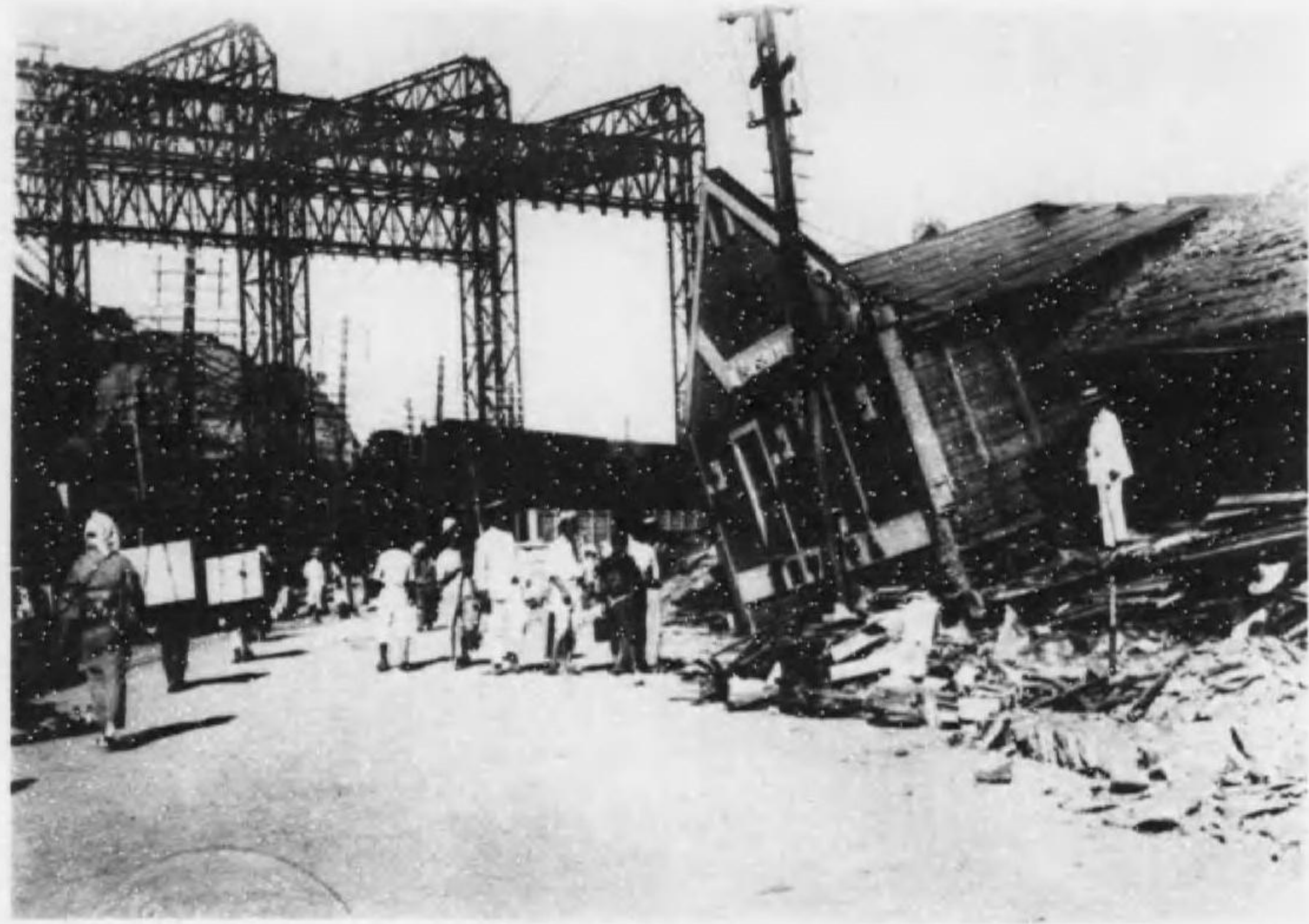
授教外野の童兒災罹るけ於に市濱横



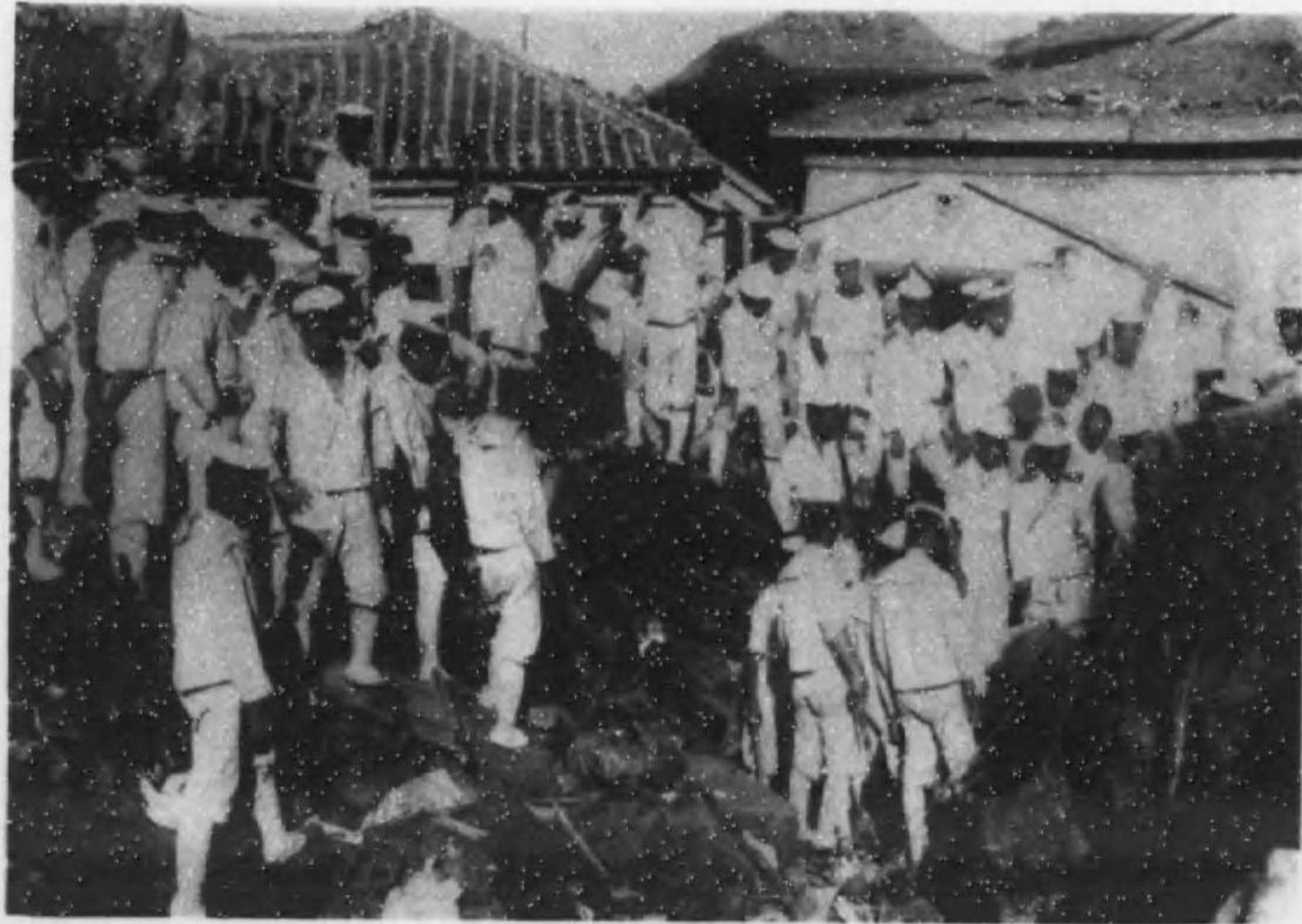
會州追善死地災難るけ於に國公濱廣



横須賀市の惨状



横須賀市の惨状 (海軍の活動)



鎌倉海嘯の後惨状



鎌倉駅前惨害の状



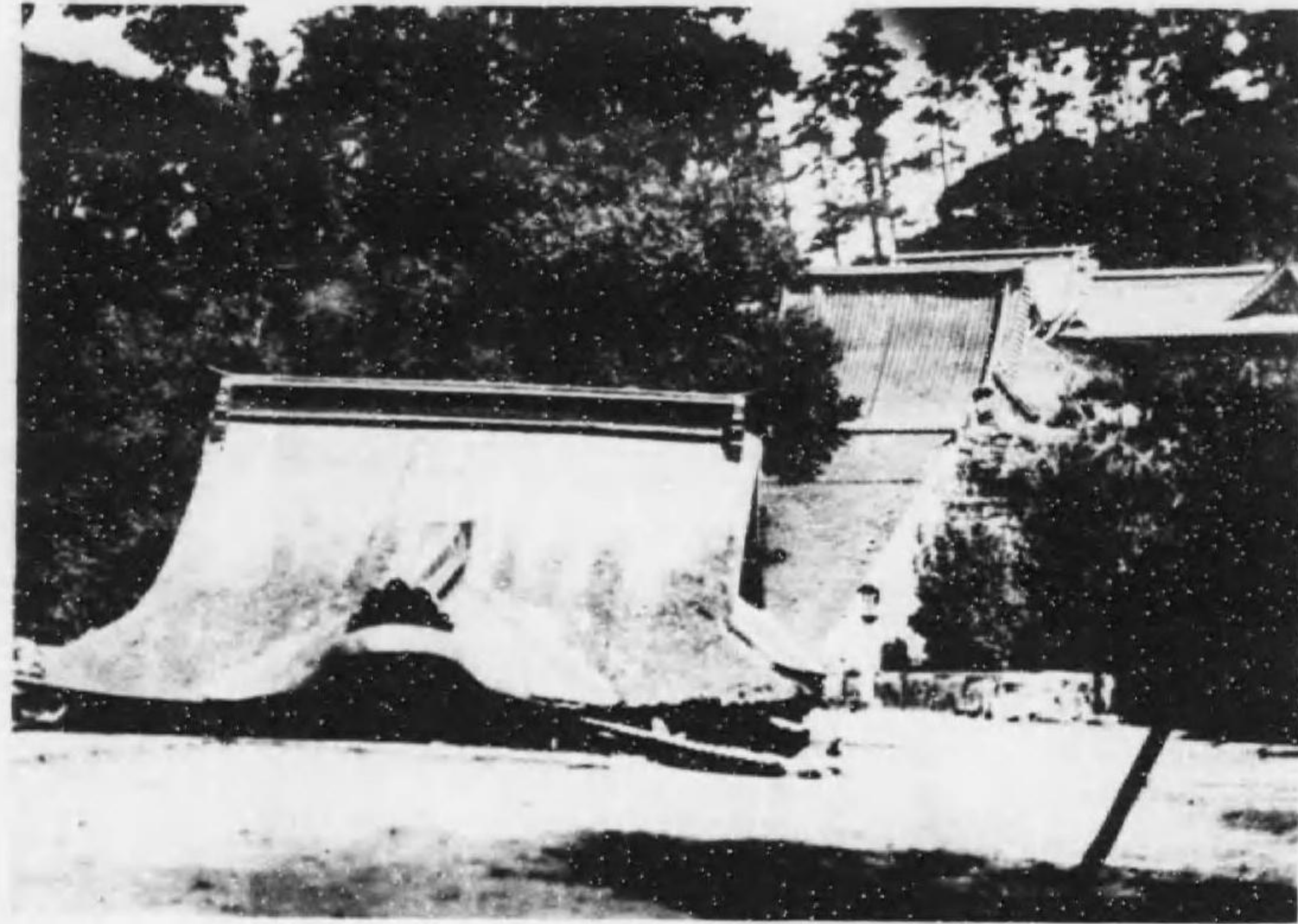
狀慘の近附下ノ坂町倉鎌



隊大六十第兵工の業作鑿開坂袋巨町倉鎌



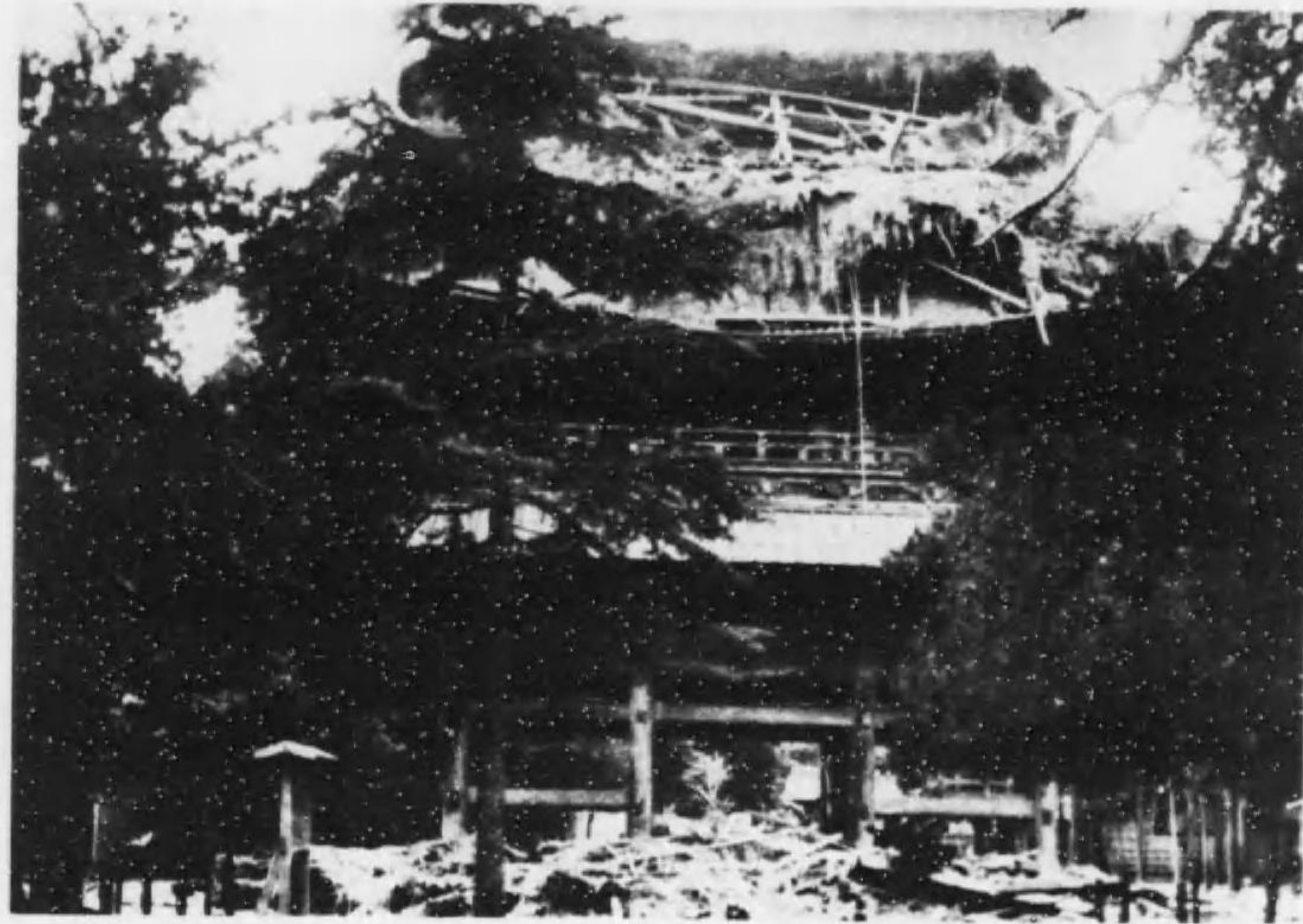
潰倒の殿舞前社宮幡八倉鎌



(寶國) 居鳥の一幡八岡ヶ鶴町倉鎌



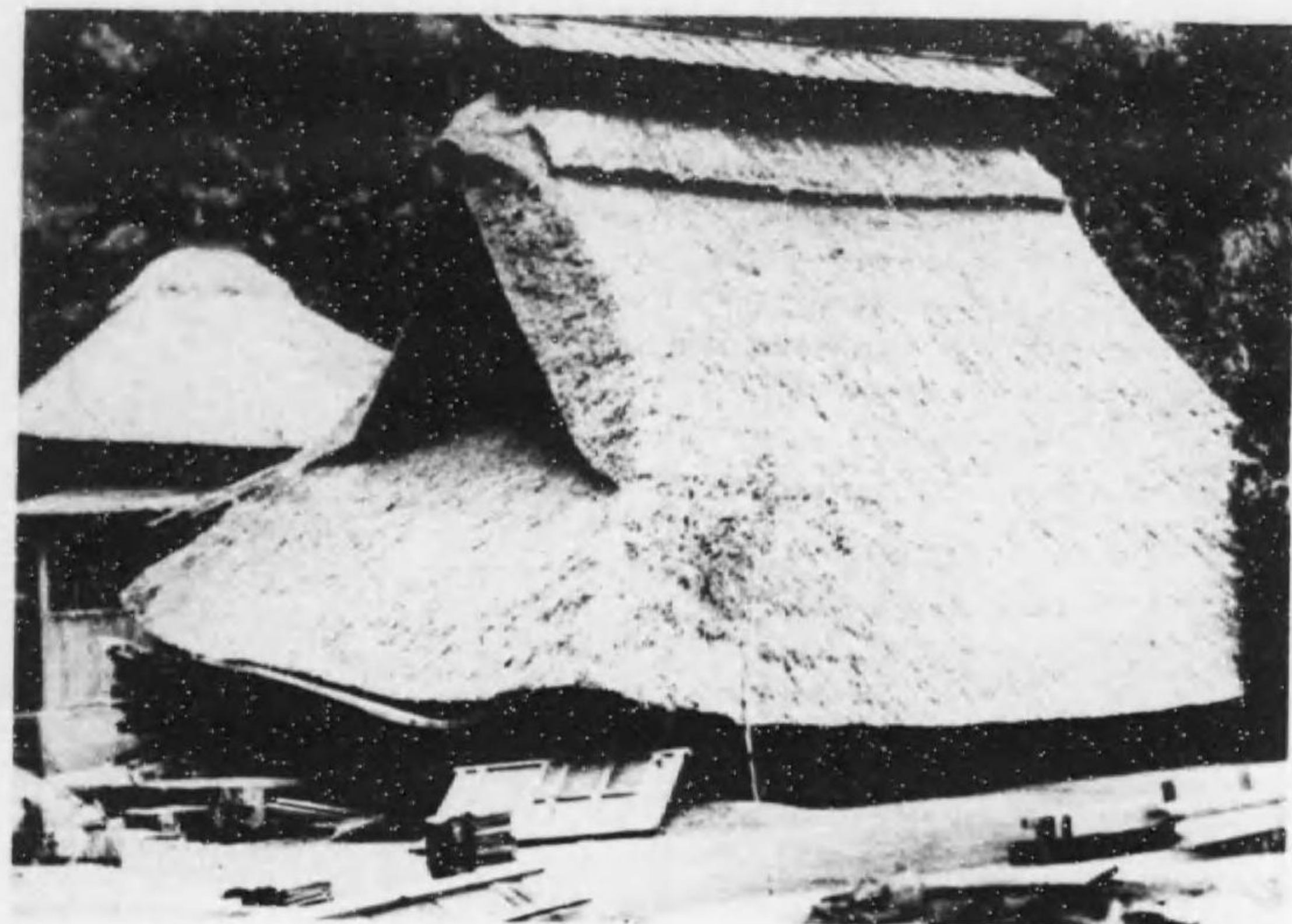
壊破の門山寺長建倉鎌



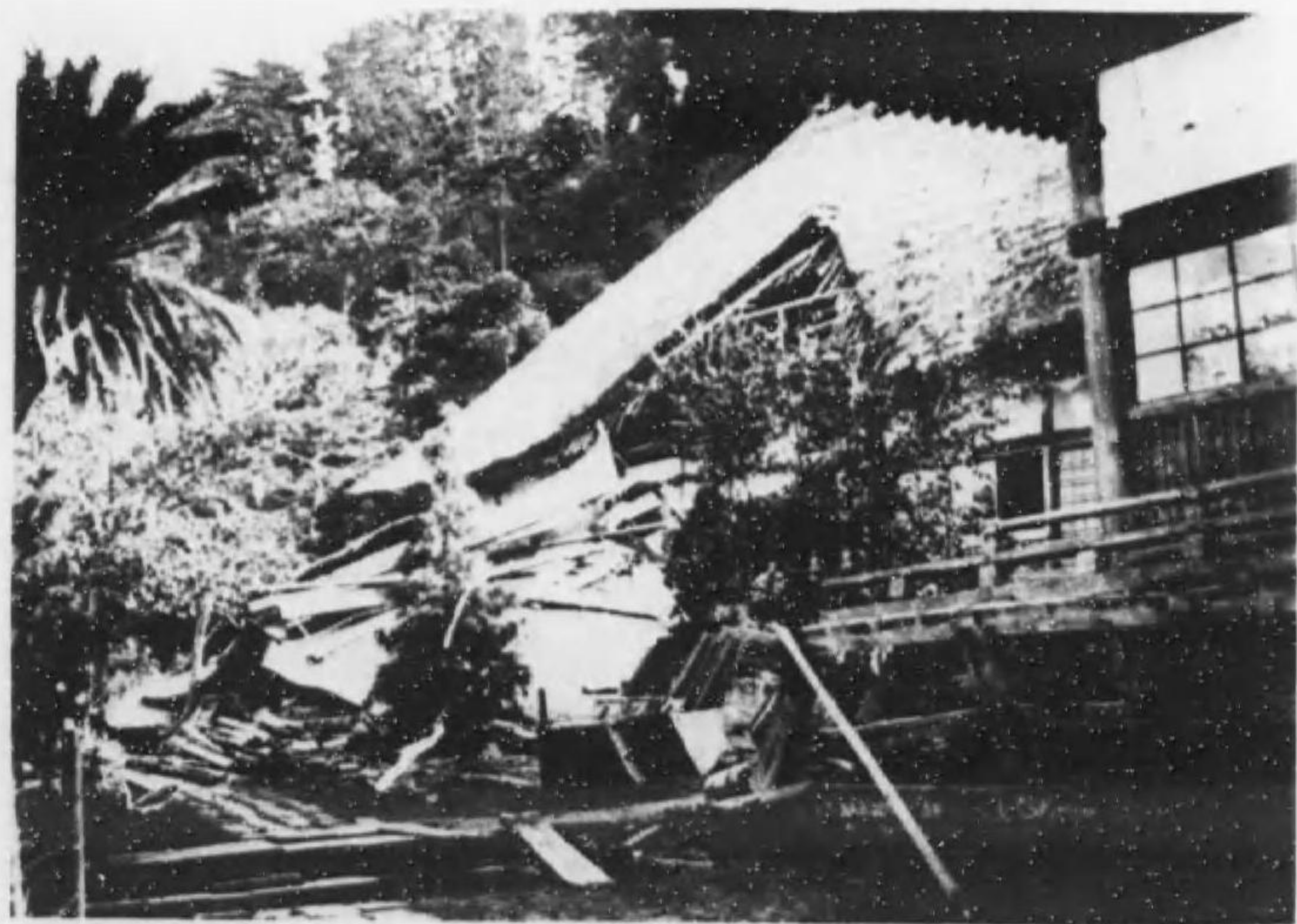
潰倒の裡庫及丈方寺長建倉鎌



潰倒の殿利舎寺覺圓舎鎌



潰倒の丈方寺明光舎鎌





鎌倉極樂寺の倒潰



長谷大佛の移座
(前方へ二尺一寸八分)



日蓮上人遺説
法舊蹟の破壊

三崎町の惨状



青野西の惨状、大地震の十一ヶ月前に

浦賀船渠社会工場の倒壊



(一の其) 状態の町子廻



(二の其) 壊破の橋越田町子廻



(寶國) 潰倒の門雀中寺行遊町澤藤



害慘の町澤藤



脚橋の橋模相古るたし現出てり因に災震



狀慘落墜の橋鐵入馬





秦野町中心地の焼跡

大山町愛宕瀧附近の惨状



大山町開山町附近の惨状

小田原町の惨状



小田原御用邸の大龜裂



箱根塔の潰崩の惨状



箱根登山電車線の潰崩

